1—891
明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
大正元年九月十五日發行（每月一回十五日發行）

廓清

第二巻第九號

主張　社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂

△不良少年の輩出…………會説
△犯罪と娼婦との關係…………法學博士 小河滋次郎
△趣味の變遷と遊廓…………内田魯庵
△矢野氏の藝者論を讀む…………早稲田大學教授 安部磯雄

雜誌之雜誌

◎御大喪彙報（各新聞）◎ブース大將の逝去（ときの聲其他）◎ブース大將傳（山室軍平）◎學校と宗教（基督教世界）◎再婚する男女の心（ひぐらし）◎家庭の風儀（植村俊平）◎近代文藝と婦人（島村抱月）◎十二階下の秘密（松の里人）◎京都遊廓の廢止と制限（大阪朝日）

△青樓に近江聖人の後裔を訪ふ…………成女高等女學校長 宮田修
△奇怪なる廢業申請の取扱…………記者
△廓清餘錄…………記者
△輿論の聲…………道の友 東海新聞

廓清會本部

洗濯が雜作もなく出來る

洗濯がおつくうに思はれたのは模範的洗濯石鹸と言はれる……

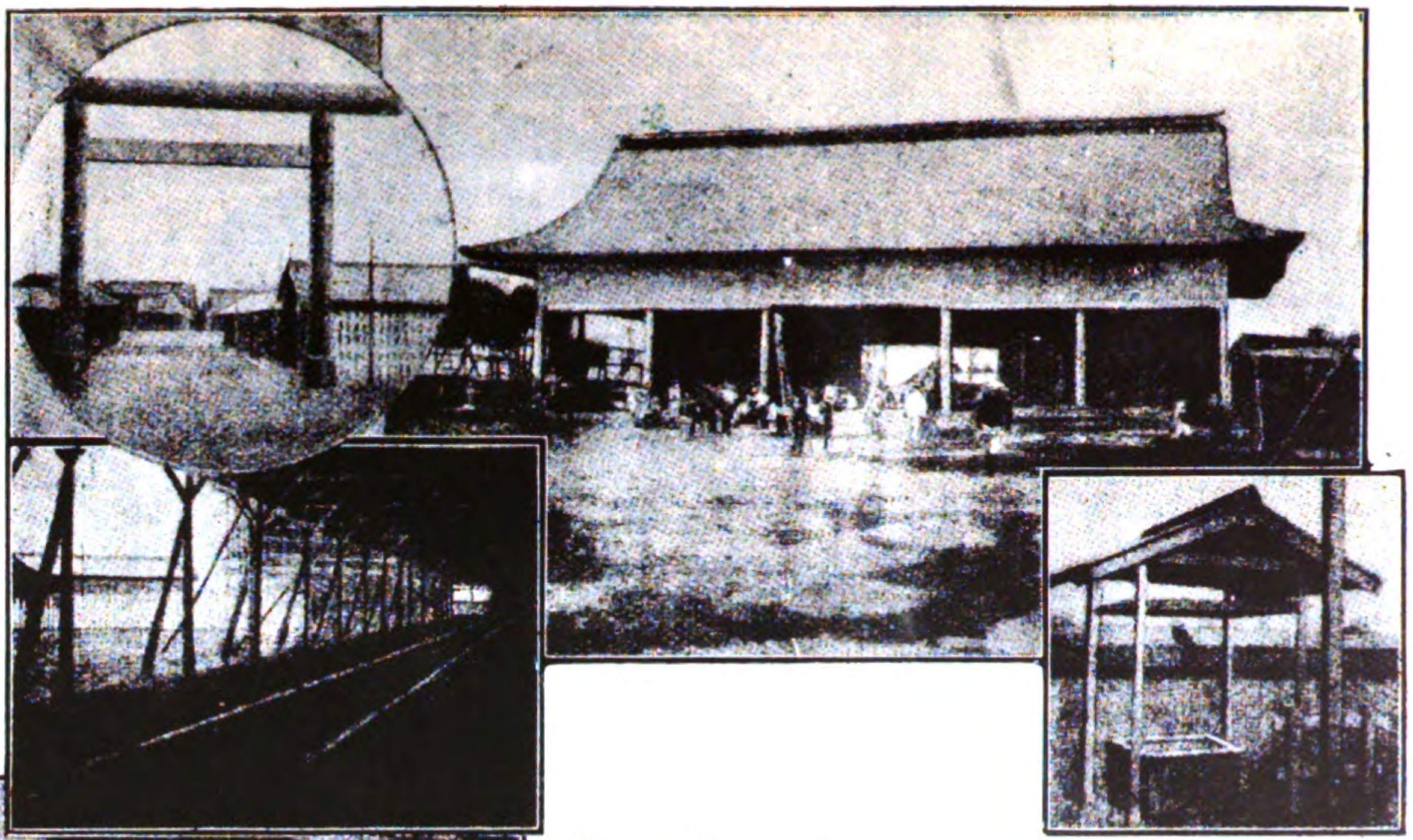
●ライオン洗石鹸——が出來なかつた時の事です少しも布地を傷めず時間も手數もかゝらぬ洗濯を望む方は一日も早く

定價は（壹個に付）

壹號	金七錢
貳號	金六錢
參號	金五錢
四號	金四錢

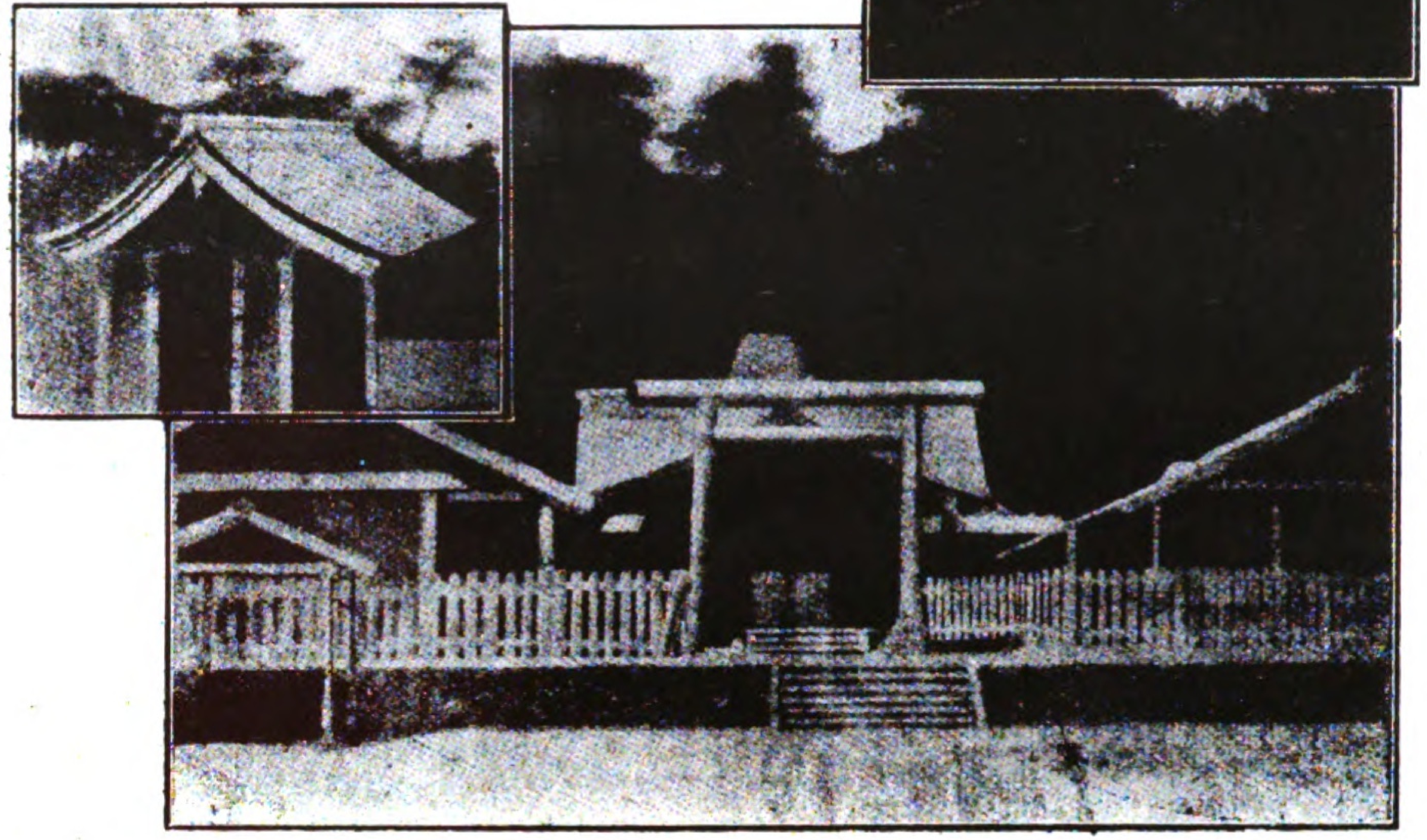
ライオン洗石鹸をお使ひなさい

發賣元 ライオン齒磨本舖 東京・大阪・名古屋 小林富次郎



青山御葬場

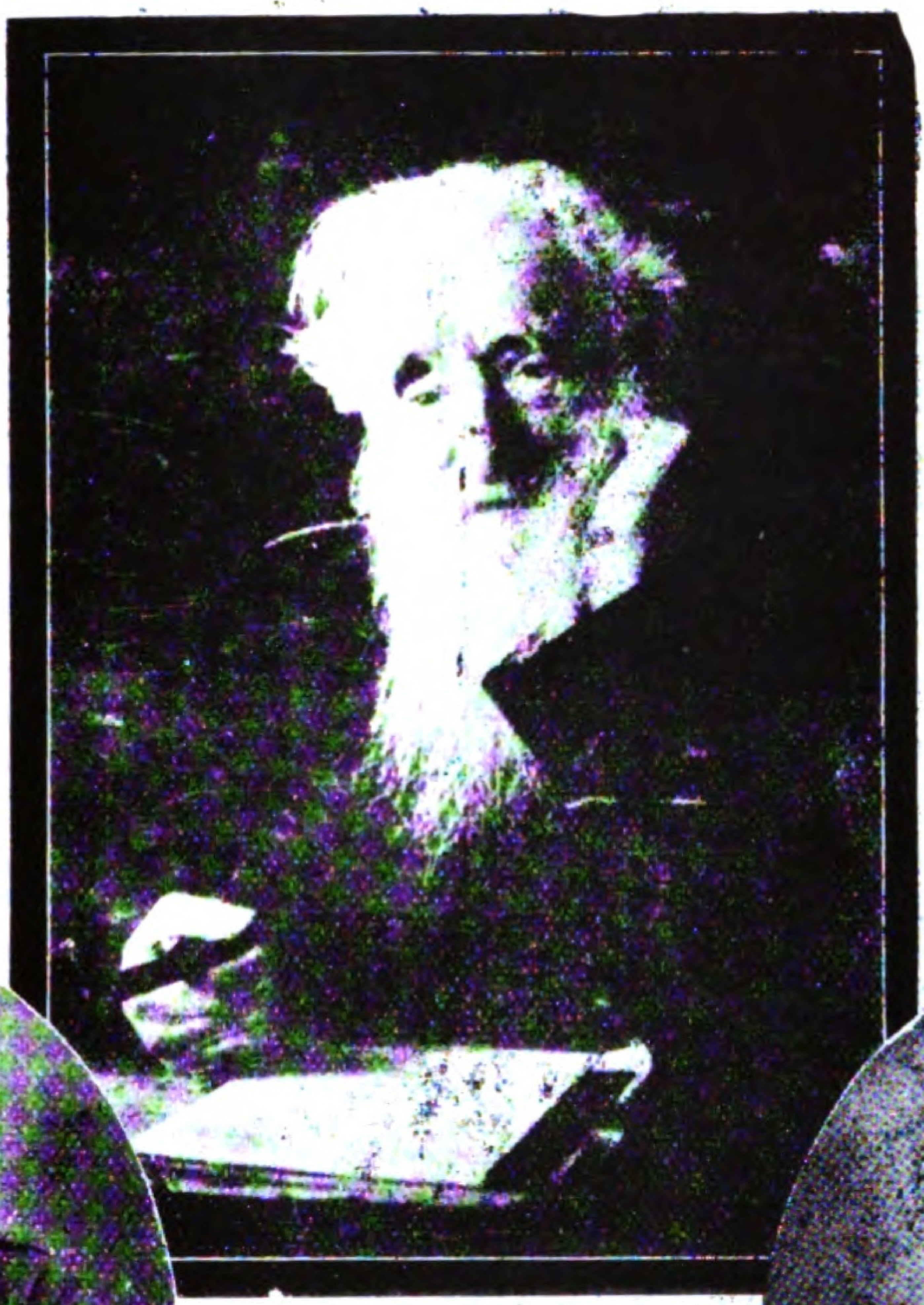
（右）御手水所
（正面）御葬場殿
（左上）第一ノ御華表
（左下）靈柩移御ノ御廊下



伏見桃山御陵

（正面）御齋場殿
（左上）御須屋

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY



故 救世軍總督大將
ウイリアム、ブース

書記長官山室大佐

日本司令官ホッダー少將

新總督大將ブラムウエル、ブース

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

不良少年の輩出

(一) 徹底せざる愛國心

日本人は『足下は國を愛するや』といふ問を受けたならば非常に不愉快に感じやう。蓋し日本人に取つては如斯は誠に失禮なる質問で、唯驚きの眼を睜つて誰しも憤るであらう。それ程迄に忠君愛國の精神は熾烈である。が、然らば果して我國民は其國を愛する手段に缺如する處がないであらうかといふ事になると、乍遺憾日本人の思想の單純にして徹底的でない事を容易に見出すのである。世人の多くは動もすれば愛國の手段方法を政治的に解釋して了ふ傾がある。即ち強大なる艨艟貔貅を以て外患に當り、精緻なる警察の力を以て内憂を防ぐといつたやうな、唯政治の力を以て愛國の事實を舉げやうといふ風に理解されてゐる傾向がある。

乍併政治は社會の反射である。政治なるものは社會の氣風から引離れて單獨に成立つものではない。社會の反映は即ち國家の反映である。斯う考へて來ると先づ社會は如何に組織せられ如何に組立てられてゐるかといふ事を顧みる必要が起るのである。社會とは家族が或る組織的の形を以て現はれたものであるから、家族の風習の如何は、やがて社會の反映となり國家の興亡となるのである。家庭の純潔が社會の進歩の根源をなすものであるといふ事こそ、眞の眞味に於ける愛國者の須臾も忽にすべからざる問題なのである。

(二) 憂ふべき不良少年の輩出

近時著しく人の耳目を聳動せしめたのは、彼の不良少年の輩出である。十三四歳から十七八歳位の惡少年が警察の眼に餘つて拘引若くば檢舉された事は、實に寒心すべき現象である。斯いふ事は全く例のないとでもないが、從來とは頗る其趣を異にしてゐる、今回のは其人數の夥しきと、女子が加はつてゐるといふ事だけでも一驚の値があるが、外國辺りにあるやうな、棄兒、孤兒或は兩親の放養による者ではない。大部分が衣食に何不自由もない中流社會の子弟で、中には中學を卒つたもの、高等教育を受けつゝある者すらある。之が從來のやうに貧窮にして子弟を教養する事の出來ない家庭からでなくて閲歴あり門閥ある家庭から出たといふ事は實に由々しき大事件と云はなければならぬ

或人が中等社會は國家の脊髓であるといつたが、人爵につき富貴につき餘り上級を占めてゐると世の中と懸け隔つて、

身心を用ふる事が出來ないから人の心が遊惰に陷り感覺が遲鈍になる。又貧しくて衣食の事に全力を注がなければならぬものは、世の中の事を考へる餘裕がないから責任を感ずる事もない、そして其力が餘りに弱い。國家の運命を繫ぐものは何者であるかといふと、即ち中等社會である。然るに此國家の脊髓をなす社會の子弟から、第二の國家の中堅となるべき子弟の中から、不良少年を出したといふ事は、即ち其家庭の紊亂を語るものであつて、彼の內亂外寇と共に、否寧ろより以上に憂ふべき事柄ではあるまいか。

（三）公娼は國家の基礎を危うする白蟻也

東洋流の人は豪然として『國家の事は大也、然れども家庭の事は小也』と云ふかも知れない。乍併何ぞ知らん小なる家庭と國家との關係は部分と全量の差のみである。其部分々々の腐蝕は即ち全量の腐蝕ではないか、學校敎育之を救ふ能はず、敎會寺院亦感化の力及ばず、中流社會の家庭に腐敗の空氣漲つて遂に不良少年を產み出すに至つては慄然として襟元に冷水を浴びせられたやうな感じを禁ずる事が出來ない。愛國の念に富むといふ國民の、一大猛省を促さゞるを得ない事件である。

而して不良少年の產出が家庭の腐敗より來り、家庭の腐敗が、貞潔問題より來れる事は、吾人の直に言明するを躊躇しない處である。更に國家が賣淫を是認し、醜行を營業と認むるが如き態度こそ、實に貞潔の思想を沒了し、從つて家庭を蠹毒し、不良少年を蠢出せしむるに至つた眞因であるといふ事を容易に推定し得るのである。然らば則ち日本の賣淫公許制度は實に社會の基礎を危うする白蟻である。噫公娼制度は實に社會の基礎を危うする白蟻を養ふ制度である。

大正元年八月二十日救世軍總督大將ウイリアム・ブース氏八十四歲の高齡を以て終に昇天せらる。吾人は現代の奇蹟ともいふべき近世靈界の偉人が風貌と事業とを顧ふて哀悼追慕の念に堪へず、謹しんで弔意を表す。

犯罪と娼婦との關係

法學博士　小河滋次郎

(一)娼婦の犯罪をなすは除外例也

刑法學の泰斗プリンスは曰く『犯罪は文明に伴隨す』と(La Criminalité suit pas a pas la Civilization)然り、光明の一面には暗黑あり、光の强き處は影却つて深きものなり。犯罪は實に文明の進歩と共に益〻增加の傾向を有す。而して氏の此語は直に移して以てプロスチツーシヨン即ち娼婦の上にも當て箝むる事を得るが如し。見よ、苟も人の相集る處古往今來何處にか娼婦の流毒を見ざる。而も其慘毒の程度が常に文運の進展に正比例し、最も繁華なる而して最も發達せる都會が、最も多く娼婦に毒せられつゝあるの事實を吾人は容易に看取する事を得ん。

抑娼婦は如何にして墮落し來るか。泰西に於ては娼婦の多數が其犯罪をかね、若くば犯罪と密接の關係又は傾向を有する處より、娼婦墮落の原因を以て一種の道德的の變質に歸し、他の一般犯罪者と等しく、娼婦通有の定型又は特徵とも稱すべきものを認むべしと曰へるロンブロゾー一派の説も、多少耳を傾くるの價値なきに非るが如しと雖、外國のそれと大に趣を異にせる我娼婦のこゝに墮落する原因としては、變質論を以て之を解決せむ事、到底不可能なりと云はざるべからず。

我藝娼妓にありては、賣淫それ自身が既に不道德の甚しきものなる事はいふ迄もなけれども、而も其以外に於ける行動に就て之を觀れば、敢て良家の子女に比して玆ぞと非難すべき格段の缺點は、之を認むる能はざるのみならず、却つて此社會に共通する一種の花柳氣質とも稱すべきものありて、よく人情を解し、信義を重んじ、體面の爲には金錢を土芥視すといふが如き一片稜々の美はしき俠骨を有する者敢て珍らしとせず、西諺に『男は頭にして女は首なり、頭の廻るは首あるが爲なり』といふ事あり。藝娼妓に迷ひて頭の廻らぬ悲境に陷り、若くば廻り損ねて罪科を犯すに至るが如き痴漢は即ち之れ有れども、藝娼妓自ら犯罪をなし、又は惡性の行爲

を常習とする者に至つては寥々として曉の星のみ。

されば余は、東西の娼妓を比較して其實質に就て大なる相違あるを認め、心密に我娼婦の特色を多とし、折もあらば其眞相を紹介して歐米に於ける娼婦研究家の參考に供し、彼等が常に惡性の娼婦のみを對象として推論を下せる蒙を啓く處あらしめんとの希望を抱きつゝありしが、頃者偶々バウムガルテンの娼婦論を讀み、西歐にありても娼婦は犯罪の除外例に屬するものなる事を知り得たり。即ち氏はウインナに於ける二千四百人の娼婦に就きて研究したる結果、娼婦の犯罪をなすものゝ意外に少數なるのみならず、容易に犯罪をなし得べき機會に於ても、敢て之を試みんとするが如き者すら稀有なる事實を確め、尙斯かる現象を見るの原因としては、彼は、娼婦固有の意氣地なしと、魯鈍なると、而して又獨立心なき心的狀態に歸せり。氏の推定したる此立論の如きは、あまりに簡單に過ぎ輕忽に失する獨斷にして、敢て之が爲に我娼婦の特色を打消し終らしむる能はざるも、少くも、娼婦が犯罪に關係を有せざるの一事が、必ずしも我に限らざるの反證を與へられたるものと謂ふを得べし。

(二)娼婦墮落の原因

チユシヤテレート(Duchatelet)が巴里の娼婦五千百八十三人に就て、其外部に現はれたる社會的墮落の原因を研究したる處によれば。

非常なる窮迫に因る者　一、四八一人
兩親の窮迫に因る者　一、四四一人
兩親の死亡委棄放養による者　一、二五五人
其他　一、一〇六人

其他の原因として數ふべき主なるものは

一、家族扶養の必要
一、目的なく巴里に流浪し來れる者
一、軍人又は學生等に誘拐せられて巴里に駈落し來りたる者
一、下婢奉公中誘惑又は解傭せられたる者

等にして、情夫に棄てられたるが爲に醜業に墮落したるもののみにても、一、四二五人の多きを數ふといふ。

醜業者の最多數が、下層貧民社會より產出する事實より、生活難のみを以て直接墮落の原因と認むるは、未だ全く正鵠を射たるものにあらず、研究家の說く處區々たりと雖、バウムガルテンが、娼婦墮落の原因を以て道德的境遇に歸し、其所謂道德的變質なるものも、先天的なるに非ずして不德行爲を營めるが爲に後天的に享有したるものに過ぎず、變質は即ち墮落の結果にして其原因に非ずとせるは、頗る穩健なるに似たり。氏は更に『生れて溷濁の境遇に養はれ、見聞する處一として不義不德の事ならざるはなく、長じて性慾を覺え虛榮を知り、之を充たさしむる爲に甘言を以て誘はる、滔々として醜業に墮落する者あるを見るは蓋し自然の勢のみ。而して彼等は淫行に對して醜業なりといふ觀念を有せざるのみならず隣佑も亦日常普通の事として毫も怪しまず、或は却つて

其幸運を廢し、其稼業の繁榮を羨慕するが如き傾向すらなきにあらず、彼及び彼の社會は元より貞操の何者なるかを解せずして、或者を視る事殆んど一種の財產と擇ぶ處なく、世人の認めて破操となす處のものも、彼にありては唯財產の利用のみ、若くば自己の身體を自己の自由に處分すといふに外ならず、犯罪者の多くが其行爲の不正不法なるを自覺するに反して、醜業の醜を解する者の娼婦に少きは之が爲なり云々」と記せるを見る。悉く首肯する能はざるも、略其眞相を穿ち得たるものといふべき乎。

(三)犯罪と賣淫と其反社會的行爲たるに於て一なり

娼婦に公私の別及び、一時的なると常習的なるとの種別あり、其の私娼又は一時的のものに至つては之が實數を詳にする事殆んど不可能の事に屬す。伯林に於ては公娼即ち警察監視の下にあるもの四千三十四人、私娼の推定約五萬人、維納に於ては公娼千七百人私娼一萬五千人、巴里に於ては常習的の者のみにても約一萬三千人の多きを數ふべしと云ひ、ハンブルヒに於ては今日より五十年の昔既に娼婦の多き事、同市に於ける一般青年女子十人に對して一人を占むるの割合なりしと云ふ。飜つて我東京を觀るに、純然たる娼妓五千人の外、藝妓のみにても三千人を算し、其他酌婦、茶屋女、雇女、女藝人、新聞縱覽所の雇女等の如きは亦頗る警戒を要すべき種類のものに屬す、且つ之に加ふるに高等若くば普通の私窩子なる者を以てせんか、其數や蓋し各國の大都に比して遙に優勢を占むるの事實を見るべし。さればプリンスの言葉を娼婦の上に移し、更に其反定理を眞なりとせば、東京は即ち最も文明の發達したる處なるもいまだ知るべからず、併し乍ら娼婦の多寡を以て文野を測斷するが如きは元より誤れり、道義風敎の力を度算せざるべからず。故に東京の文明が西歐首都の文明と伯仲の間にありと假定せんか超越せるプロスチツーションの數だけ道義の觀念の低級を證するものといはざる可からず。

而して如斯尨然たる娼婦の大群を有する我國の、之に對する態度は如何。犯罪を禁止防遏する事に就ては、寧ろ人工的に殊更に犯罪を製造して迄之を制壓せんと欲するに汲々之れ日も足らざる今日に於て、獨り賣淫の罪惡に就ては之を等閑に附して顧みざるが如きは抑〻何事ぞや、賣淫も等しく之れ罪惡にあらずや、犯罪もプロスチツーションも其反社會的行爲たるに至つては即ち一なり、而も甚しきに至つては、娼妓又は藝妓の名の下に其醜業を公認し、社會上流の士人又之に接近する事を以て深恥とせず、紳士紳商の醜業婦を入れて室となす者あるも、世人は默然之を看過するのみならず、令夫人又は貴婦人等と崇めて其前に叩頭跪座して敢て怪します、道義觀念の痲痺せる事茲に至つて極まれりといふべし。

(四)制壓の困難は放任の理由とならず

論者は曰く、賣淫の性質たる禁令を以て制壓の目的を全う

する事至難なるが故に、止むを得ざる罪惡として或程度迄放任するの外なしと、奚んぞ知らん實効を擧ぐるの困難なる點に於ては、犯罪其他の凡ての反社會的行爲も亦一として然らざるはなきに非ずや、石川某の歌ふ處を聞け、濱の眞砂は盡きるとも世に盜人の種は盡きずと、而して刑法の大家プリンスをして『犯罪は文明に隨伴す』と悲觀せしめし所以のものこれあるが爲めに非ずや。而も古來いまだ制壓の至難なるが爲に犯罪を看過し、若くば之を放任すべしと、暴論を發したるものあるを聞かず、假りに斯かる意見を提出したるものありとするも、何人かよく之に耳を假すの愚人あらんや。

犯罪と賣淫と其社會の公安に危害を加ふるに至つては全く一なるが故に、制壓の至難といふを以て賣淫を放任すとなすの理由とはならざる也、今の賣淫取締なるものは實は賣淫の監視若くは保護に過ぎず、賣淫其者の罪惡を禁罰するの趣旨に出でたるに非ずして、唯一定の監視を逃れて之を行ひ、若くば衞生風俗等の利益(?)の爲に設けられたる或取締の法規に觸れたる場合に制裁を加ふるに過ぎず、取締を受くる者の側より之を見る、彼は檢黴又は入院によつて健康を保ち、私窩子の征伐せられる事によりて生業を安んじ、相當の營業税を拂ふ事によりて國民としての權利と本分を全うし、寧ろ至大なる惠恤保護の下にあるの感なき能はざる處なりといふべし。

罪惡を公認して營業の一種となす、天下豈之れに勝る不條理あらんや、如斯にして醜業の制壓を見る能はざるは何の不可思議か之あらん、而して益〻一國風敎の上に其流毒の甚しきを加ふるに至れる、蓋し自然の數なる事、何ぞ敢て識者を待つて知らんや。

趣味の變遷と遊廓

内田魯庵

(一)遊廓は既に終焉の床にあり

公娼問題といふやふな事に就ては、之れまで餘り考へて見た事もないが、私は別段取立てゝ騷ぐ程の事ではあるまいと思ふ。今頃彼れ是れいふのは既に後れてゐはしまいか、當局者にした處で、それは廢止するといふ責任ある言葉こそ出す

まいが、既に其方針を取つてゐるやうに思はれる、吉原洲崎は別として新宿とか品川の如きは小事でもあれば再建を許さぬ事になつてゐると聞いてゐる。それに年々取締規則は六ヶ敷なつて樓主が利からぬやうになるばかりである。殊に先達てから十二階下の强制檢黴を行つてゐるといふ事であるが、彼等に强制檢黴を行ふといふ事は、即ち私娼の存在を認めた事である。公娼制度といふものから見れば私娼は撲滅せしめなければならぬ筈である。それを却つて檢黴をするといふ事は、私娼を認め之を保護するものであつて、時勢の推移を語つてゐるものだと思ふ。現に何處の遊廓も年一年衰運に向つてゐる事は明かな事實で、遊廓は既に終焉の床に所謂シャイネストック型の呼吸をしてゐるのである。

私は未だ一度も斯ういふ巷に足踏みした事はないけれども他人の經驗を綜合して凡その見當はついてゐる。殊に私の處には吉原の或樓の息子が遊びに來るので、それから色々と廓の事情も聞いてゐるが、昨今の吉原の不振は側の想像以外に著しいものださうである。少し氣の利いた人達は先を見越して廢業の方針を取つてゐるといふ。併し廢業したいと思つても、仲間の規約が面倒なのを別としても先祖代々の商賣ではあり、或は既に多年續つて來た商賣であるから、おいそれと轉業の出來ないのは、何も特に此營業に限つた事はない、一家處世の大方針を改むるといふ事は何人に取つても容易ならぬ事件であつて、兎も角にも彼等も適當な機會と適當なる職業を捕へんとしてゐるのは事實である。併し大勢の推移を知らない奴はいつ迄も高尾薄雲時代の全盛を夢見て、怎うにかして景氣を挽回しやうと四苦八苦の態たらくである。彼等の背後に死の黑い影がひた／＼と押し寄せてゐるのも知らないあはれな罪の子は、樣々な斷末魔の苦悶をやつてゐる。其或者は切符制度に改める、或者は襖か壁一重でしきつて並んでゐた座敷を、中庭を廣める、石燈籠を立てるして、室々をそれ／＼はなれの樣に見せかけたり、女郎に洋裝をさせて見る、素人風をさせて見る、女學生風をさせる、して一生懸命苦心はして見るもの丶、さて悲しい事には何れも思はしい結果は得られなかつた。中に偶々少し流行る樓があるとすぐ仲間から妨害するといつた樣な有樣である。そして斯ういふ不景氣は獨り吉原に限つた事はない。私は時々大久保に行く道に當るから『新宿』を通るが、實に寂寥たるもので、四谷の大通りの繁昌に比べて著しい寂しさである。そしてこれが全國の大勢なのである。

(二一)嫖客も娼妓も相共に低下せり

這麽風に色々に藻掻いた經驗の結果、何が一番客を引つける力があつたかといふと、七十五錢で菓子をたべてそれですませる仕組みにした樓であつた。酒や其他の飲み食ひをせずに菓子位を一寸食べて遊べるといふ極めて簡單なのが、客の氣に適つたのであつた。(併し之れも仲間の妨害の爲めに繼續が出來なかつた)即ち安値で簡單なのが最も客を迎ふるに適したのである。

安値で簡單なのが流行るといふ事はどういふ譯であるか、これは昔の嫖客と今日の嫖客と、客の種類が變つたからである。今日の公娼なるものは中流以上の人の趣味に合はなくなつて了つた、唯下層の職工輩の勞働者のみになつたからである。二十四五年も前は吉原のお客といふと殆んど書生であつたが、今日では書生のお客はいくらもない。それに引手茶屋から女郎屋に揚るといふ上等のお客も殆んどなくなつた。偶偶あるかと思ふとお茶屋で藝妓を揚げて騷いで其儘女郎屋に行かずに歸つて了う樣な滑稽な事になつて來た。又田舍から商用か何かで、一年に二度とか三度とか定まつて上京するものが以前は必ず吉原に行つたものである。そしてかういふ人達は毎年來る中には樓主と馴染になり、女の方は第二義にして親類づき合ひをするといふのが普通になつておつたが、かういふお客も跡を絶つてしまつた。それから遊廓で最も歡迎する客といふのは四十から五十位の風流がつて遊びに來る通人で、斯ういふ人達は若い者と違つて女に嵌り込むといふ樣な事がないから、馴染の女が居なくなつたからつて來なくなつたりするやうな事もなく、金錢にも淡泊で、女にも色々な物を買つてやつたり、店の方にも相當のつけ屆けをするし間違のない常得意として樓主の最も喜び迎へる處であつたが今は斯ういふ風のお客もなくなつた。

一方に斯くの如くお客の種類が變つて段々下等になつて來ると同時に、女郎の方に於ても段々と下等なものになつてしまつた。昔は高尾薄雲のやうに立派に淑女教育を受けたものが多かつたが、今日では益々下等になつて來て、無垢な處女で吉原に遊女を勤めるといふ樣な者は全くない。昔は禿などといふものがあつたが今日ではそんな者もなく、皆方々阿婆摺れ廻つてしやう事なしに吉原にやつて來るといふ樣な手合ばかり、法律上の年齡の制限がある爲めでなくて、今日では十七八歳位の者は來ない、皆二十二三歳位なのばかりである。

斯ういふ有樣でお客も娼妓も相共に段々低下して來て、少しく教育あり地位あるものゝ趣味が全然去つてしまつた。

(二)公娼私娼の盛衰は即ち趣味の變遷を語るものなり

一體此頃いや隨分昔から行はれてゐる說であるが、性慾以外にプラトニックラブなどと稱するものがあると考へてるものがある。併し元來人間といふものは自分の弱點を掩ひ、何とか體裁よく說明しなければ承知の出來ないもので、獸類と等しい慾望として滿足する事が出來ない。であるから遊廓の如きも赤裸々に唯獸慾を充すより外何物も得る處ではないとなると、誰しも二人引で反り返つて吉原に通ふ樣な事はしなくなる。それが昔は唯獸慾を充すのみの場所ではなかつた。何しろ大名等も微行で皆んな遊んだ位で、遊女も亦今日の如く卑しいものではなくて、張りも意氣地もあつた。高尾や薄雲に限らず俳句に長じ詩をよくするやうなのも敢て珍らしくなかつた。——西洋でも昔グリーキ邊りでは、ソクラテス、アリストーテレス等と共に立派に史上に名前を殘してゐる、

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

大哲學者があつた。——遊廓は一種の社交機關であつた。それだから宮本武三四が天草出陣の時に馴染の遊女に別れに行き、其後朝の歸るさ、片身に貰つた裲襠を着て駒を打たせたといふ樣な事も傳へられてゐる。或は參勤交替の時會合別離の宴を茲で催すとか、或は書會を開き俳莚を張るなどゝいふ樣な事もあつて、獸慾一方ではなかつた。此相違が即ち吉原の衰微となり、新橋赤坂の勃興となり、十二階下の跋扈となつたのである。

或る廢娼論者は十二階下に私娼が跳梁してゐるのは公娼制度の誤謬を語るものだと論じてゐるが、私はさうは思はないそれよりも人々の吉原に對する趣味が去つたからだと思ふ。

（四）反對論は無學より來る

此頃一部の所謂新しい女が吉原に上つたといふので、非常な大問題で　もあるやう騷ぐ者があるがつまらぬ話である。併し元より是認すべき事ではない。女だからといふのではない男でも勿論是認すべきではない、一體今日の若い人達の間に專ら流行する一種のヘレニズムといふやうな、歎美主義を基礎としたアーチスカル、ライフは、果して推奬すべきものであるか疑問である。今の若い男の文人たちの中には十二階下を知らないと新らしい氣分が味へないやうに思つたり、茶屋酒の味ひを知らない文學は乾燥てる等と放言してゐる人達があるやうだが、かういふ態度は甚　感服しない。唯自分一個の感情からいふのではない、かういふ態度から生れた文學が權威を有する筈がない。

近來又不良少年問題が大分喧しい樣である、そして不良少年と其家庭を頻りに攻擊してゐるが不良少年のみが强ち單一なる不良行爲の生産者ではない、實はもつと遙に恐るべきものがあるのである。世の中に何の勢力もない青年の僅か斗りが墮落するよりは、社會から仰がれてゐる堂々たる知名の士が、自動車で待合入りをする方がどれ程惡感化を世間に與へるか知れない。

一體賣淫を營業と認むるといふ事は、どうしても根本的に誤つてゐる。西洋人の中には日本の公娼制度を見て讃美するものがあるといふが、これ等は餘程無學な人間に違ひない。公娼制度は何も日本の特有ではない、外國にもあつたのである。而もそれが面白くなくて段々廢止したのではないか、そして日本に後れて殘つてゐる此制度を賞讃するといふのは寧ろ滑稽である。

中には又公娼を廢止したら花柳病が蔓莚するといふ愚論をする人がある、這麽事は問題にならぬ。或は公娼を廢止したら私娼が殖えると心配する者がある。私娼が殖えるなら殖えたつていゝではないか、世界の大勢を知らないから色々な愚論が出るのである。今日の世の中に公娼廢止に反對する者はそれは餘程の沒分曉漢である。廓淸會は何もそんな沒分曉漢を顧慮する必要はない。私なぞは却つて今日では樓主に同情を持つてゐる、それは如何なる惡人でも臨終の床にある者に對しては測隱の情が沸くものである。公娼制度は即ちそれ

である。此意味に於て私は既に自滅の行程にある彼等を迫擊せんよりは將に大に跋扈せんとしつゝある私娼、殊に藝妓こそ、大に攻究に値する當面の問題であらうと思ふ。

性慾といふものが存在する間は、絶對に娼婦を撲滅するといふ事は不可能であるが、今日の藝妓の跋扈は確に攻究の餘地がある。藝妓を必要とする論者は、日本の婦人は西洋人の様に貴婦人達が宴席を取持つて呉れぬから困るといふ。併し男子の要求が其媚び、それが異性であるといふ强烈な色彩――性慾を包藏した――にありはしまいか、そして貴婦人が身も魂も今日の藝妓の様になつたらどうであらう。

武藤三治といふ人は妻君を平生盛裝さしておくさうであるそして藝妓買ひなぞをするのは妻君が世帶じみて、充分夫を慰藉する事が出來ぬからであるといつてゐる。そして氏は決して藝妓買ひ等しないさうである。それは結構な事である。が貧乏人にはそれも覺束ない。況んや心まで藝妓のやうになられては何大變だらう

(十八)余をして警視總監たらしめば

嘗て巖本善治君――まだ聖人だつた頃の事――が斯ういふ事を云つた。『强姦されたといふ事は狂犬に喰ひつかれたやうなものである。災難たるに過ぎない、何も之によつて其人の純潔は寸毫も犯されるものではない。』又一理ある事だと思ふ。併乍ら此論斷が正當であるならば、同時に斯ういふ事も認容しなければならぬ。濟まないが肩を貸して呉れといふので重い荷物を助けて脊負つてやるのは道德的行爲で、肉の或他の一部を貸借する行爲が何故に不道德であるか、身體の部分によつて道德と不道德との別を生ずる理由はない、といふ事が、今の强姦の際の理論と一緒に成立たなくてはならぬ。斯ういふ節操觀が認定さるゝか否かは別として、金錢を以て己れの意志を賣るといふ事が、既に道德的に惡むべき行爲である。自己の良心に反して利慾の爲に行動する處に既に充分咎むべき點があるのである、併し先の論定が眞理であるならば利慾の爲に右に向けと云はれて右に向くのも、節操を賣るのも同一分量の罪惡である事になる。さうすると上長の機嫌を損せぬやうにしてゐる多くの人達と、娼妓とは何の逕庭もない事になる。强姦によつて貞潔が汚れるか否かによつて這麼處にまで波及して來る、面白い問題であると思ふ。

併し、私が若し警視總監であつたならば、公娼の檢黴などはしない、私娼こそ檢黴する必要がある、そして西洋人のやうに私娼自ら客を檢査するといふ位の衞生思想に到るやうに導くが、吉原のやうな處は一切はつたらかしにしておく、彼等にすべての租稅を免除する、其かはりすべての公權を剝奪する、梅毒が如何に烈しからうが、如何なる醜惡なる行爲が行はれやうと構はない、全然警察權を敷かない、恰度亞米利加のチャイニース、クオーターの様に無警察の狀態に置くのである、そして其區域から出る奴があれば、其人間に對しては何等かの大淸潔法を行つてからでなければ出さぬ、斯ういふ風にすれば彼等は忽ち滅亡してしまふのである。(在文責記者)

矢野氏の藝妓論を讀む

廓清會副會長
早稻田大學教授　安部磯雄

(一) 到底舊思想たるを免れず

矢野氏の『藝妓論』が近頃大分新聞等にも批評され、既に三版も重ねて世間の評判になつてゐるやうである。私は此書物の總ての點に就て御話する事は出來ない、實際の所を云へば、之を通讀するだけの時間も忍耐力もなかつたのである。唯どういふ種類の書物であるかといふ事を大體に於て話して見やうと思ふ。

若し此世の中に進歩的思想の人と、保守的思想の人、即ち新舊思想に區分する事が出來るとすれば、此書物は確に舊思想に屬するものである事を大體に於て斷言するを憚らない。併し書中に記する所の事柄は、隨分私共が見て參考とすべき點も尠くはない、確に此人は藝者といふものを段々改良して行きたい、今のやうな淫賣婦の狀態におくといふ事は不都合である、といふつまり改良論なのであるから、此點より云へば舊思想の人々の中では稍進歩せる所の人に屬してゐるとも云ひ得るのである。

併し乍ら氏は、飽迄も藝者といふものは此世の中に必要なものであるといふ、必要論者である事を記憶しなければならぬ。而して其必要なりとする理由の中に、どうしても默認すべからざる點が少くも二つある。氏は、男子が放蕩をするといふ事は已むを得ないのであつて、之は婦人の方からも大目に見て置かなければならぬ。第一、男子といふものは女子に比して情慾が甚強いものであつて、女子のやうに情慾を制壓する事が出來ない、といつておる。是は極めて簡單な議論のやうであるけれども、さういふ簡單な問題ではないのである、第二、女子といふものは男子に養はれて居るものである、金を儲けて居るものは男子であるから、多少其間に不都合があつても女子の方で辛抱するのが當り前である。といふ議論で、要點は究竟此二つに歸してゐる。

極めて簡單であるが、これは世の中の進歩思想を以てゐる人から云へば、實に取るに足らぬ議論であるけれども、併し乍ら尙世の中に多數を占めてゐるところの舊思想の人々から見て、口にこそ出さぬにしても心の中に思つてゐる男子が隨分あらうと思ふから、少しく論難を加へて見たいと思ふ。

(二) 男子は女性より制慾力乏しとは何の謂ぞ

一體人間は、假令詰らない議論であつても、自分に勝手な議論であると隨分耳を傾けるものである。氏の所論の如き男子に取つては誠に都合の好い話であるが、我々は唯成程と感心するのみではいけない、それが果して公平な立場から道理に適つてゐるか否かを研覈して見なければならぬ。

矢野氏は男子といふものは、女子よりも情慾を抑ゆる力が無いといふ事に就て種々議論をして、其中に極下等なる動物などの例を澤山引張り出し、さうして自分の議論を助けておられる。雄の方が雌よりは遙に情慾が強く、或は夏燈を點けてゐると澤山の蟲が飛んで來る、所謂「飛んで火に入る夏の蟲」といふが如く、火を慕うて來るといふ事は、雌を戀ふて來る事で、彼等は情慾の爲めに終に自ら死んで了ふのであるといふ樣な事まで書いてある。私は果してさういふ理窟が立つものであるかどうかといふことを考へたいと思ふ。若し下等動物の話であるならばもう少し觀察點を廣くしなければならぬ、私共は動物專門の學者ではないから蟲ケラの事を詳く知らないけれども、矢野氏の說かれたやうな事實も勿論あらうが、同時にそれに反對した事實が、いくらも動物界にある事を看過して立論する事は出來ない筈である。

(三) 動物界に於ける反對の事實を看過せるは如何

いろ〳〵な動物を探して見ると、本當の人間が動物の前に恥ぢなければならぬやうな動物が澤山居るといふ事を私は動物學者から聞いてゐる。稍高等に進んだ虎とか鹿とかいふ獸はどうであらうか、私は一夫一婦の制を守つてゐる處の動物が決して尠くない事を信ずるものである、殊に鯨の如きは固く一夫一婦の制を守つて、實に其夫婦間の情愛、親子間の情愛の美しい事は一驚を喫する程で、野口復堂君が嘗て「我我はあゝいふものを見た時には人道などといふ事を言つて誇つて居る事は出來ない。人道どころではない、鯨道といふものを大に稱へなければならぬ」と云はれた位である、矢野氏は即ち如斯例を見遁してゐるのである。却つて動物といふものは段々進化して來るに隨つて、一夫一婦制が行はれてゐる傾向があるのを、矢野氏は何と見てゐるのであらう。私は男性の方が情慾を恣にして之を制抑する事が出來ないといふ例は、人間以外の下等動物の中にも餘り見る事の出來ない處ではないかと思ふ位である。

(四) 男性の情慾は人爲的に發達せるものなり

此事實は確に私共の考へなければならぬ事で、家鴨だとか或は鷄であるとかいふ樣なものになつて來ると、決して一夫一婦の制を守つて居ない。併し或る人が皮肉に言つて、あれは本性一夫一婦を守るべき鳥であるけれども、人間といふやうな墮落した者に養はれるやうになつてから、人間を眞似て、終に今日のやうな風になつたのだと、嘲つた人がある。之は勿論學術的に云ふ事は出來ないが、乍併、私の僅の動物學に就ての智識、僅の進化論の智識に就て云へば、人間が今

日のやうに墮落したといふ事も、やはり鷄とか家鴨とかいふやうな人間の飼つてゐる動物が、あゝいふ性質になつたといふ事も理窟は同じ事であらうと思ふ。詰り人間といふものは昔から自分の種族を非常に殖して行かねばならぬといふ必要に迫られた、どうしても人間の生存する上に於て子孫の繁昌といふ事が大なる要件であつた。それで私が思ふに、人間は昔はやはり外の動物と同樣に其性慾の如きはちやんと時を極めて起つて來るものであつて、一年を通じて起つて來るといふ事はなかつたのであるけれども、段々人口繁殖の必要から人爲的性質を養ひ立てるやうになつたのである。それで我々の飼ふてゐる鳥類はやはり、卵を得たいといふ目的で養つて居るのであるから、これも何百年かの間に段々人間のために今日のやうな狀態に化せられてしまつたのであつて、普通世の中に自由に飛んでゐるやうな鳥と異つた性質を作り出したのではあるまいかと思ふ。斯ういふ事を考へて見るならば、男子の情慾を抑制する事が出來ないといふ樣な事も決して人間本來の性質であるといふ事を信ずる事が出來ないのである。

（五）人種改良學と男女の制慾

もう一歩進んで考へなければならぬ事は、唯矢野氏は——矢野氏ばかりではない普通の論者も——唯世の中の事實を見て、事實其儘に對する自己の解釋を施すばかりである。併し乍ら總ての學問は、決して現在是がどうであるといふだけでは滿足出來ぬのである。私共は歷史を探して過去がどうであつたかといふ事を研究し、將來はどうなるかといふところの問題までも移つて行かなければならぬ。今は成程事實から云へば男子は實に我儘であつて、性慾を甚だ濫用してゐるといふ事は疑もない事實である。併し乍ら今云ふが如く過去を顧みると、元は人間もさういふ者ではなかつたと思ふ。而して將來はどうか、此儘放つて置くならば文明の墮落である。且つ文明といふ點からいへば、之れから人間の考へなければならぬ事は、男女に拘らず情慾を節する事で、或學者が文明といふものは人間が自分の性慾を制限するといふ事にある。といつたやうに、私は人間が自分の性慾を制限するといふ事が出來ない以上は、眞實なる文明の發達をなす事は覺束ないと思ふ。今日の人々が非常に矢喧しく言つてゐるユーゼニックス即ち人種改良學の上に於て、どうしたならば人種といふものを段々良くして行く事が出來るかといふ問題に到着したならば、一口に言へば我々各々が自分よりも優良なる子供を產むにある。己れより以上の子を產めば社會は發達し、人種は向上して行くといふことは疑ない事である。然らば如何にして我等は優良なる子供を產むか、即ち私共は唯其點に於て情慾を節するといふ一事より良い方法はないと思ふのである。それは智識を磨くといふ事も必要である。自分の身體を鍛へて行くといふ事も必要である、自分の品性を十分に養つて行くといふ事も必要である、併し乍ら其十分發達せしめたものを其儘之を子に傳へ、より以上にそれを發達せしめて行かうといふには他に方法はない。我々は自分のいろ／＼な情慾と

いふものを――性慾ばかりではない――制限して行かなければならぬ。酒が飲みたいといふ、それは今日の人種學から云へば酒は人類の大敵である。それから不品行をする、今日の世の中の人々の血液を汚して居るのは何であるかといふと黴毒である。即ちかういふ酒毒、黴毒といふものが、我々の社會にある間は、私共はどうしても癲狂院のやうなあゝいふ情ないものを置いて、我々同胞をあの中に養はなければならぬ。假し癲狂院に這入らぬ迄も普通の子供と一緒に小學校に勉强する事が出來ず、獨逸あたりのやうに低能兒を集めて教育しなければならぬやうな事になる。私共は本統に前にいつた學者の樣に文明の進歩といふものは我々の情慾を節する事にあるを信ずるのである、我等は唯酒を飲まない不品行をしないと云つてそれで安心すべきではない、男子も女子も自分の性慾といふものを制限して優良なる兒孫を得るにあらざれば、決して眞の文明の發達進歩を圖る事は出來ない。

(六) ユーゼニツクスの上より見たる上流社會

斯くの如く考へて見ると我等は男子といふものは情慾が强いから少々は放蕩しても差支ない、已むを得ないといふやうな矢野氏の議論を、眞面目に受ける事は出來ない。這麽議論が日本の上流社會に行はれてゐる間は到底文明の進歩は期せられないのである。今我日本の上流社會をユーゼニツクスの上から考へたならばどうであらうか、今日第一流の軍人とか政治家とか云つておるけれども、其人がどれ程偉くても其自分の偉いものを子供に遺す事が出來ないならば、彼等は社會の爲に決して良い働きをしてゐるものではない。今日續々不良少年が檢擧されてゐるが、彼等は悉く下等社會から出てゐるかといふと決してさうではない。中流若くは上流社會から出たといふに至つては實に驚くべき事である。併し之は子供が實に氣の毒である、可哀想である。矢野氏のやうな考を以て、男といふものは情慾を節する事が出來ないものであるといふやうな卑劣な弱い考に支配せられてゐる其罰が、覿面に子供に報ひて來て居るのではあるまいか。

(七) 矢野氏の說は論理上矛盾せり

併し私は此處に矢野氏の議論が如何にも筋道が立つて居ない事を一言附加へて置きたい、氏は流石に學生に對しては情慾を愼まなければならぬといふ事を、他の場所に於て說かれた。それは自分が或友人から相談を受けた。此頃は學生の風紀が紊れて段々墮落して來たから、自分の息子を東京に送るに就ては、どうは息子の墮落しないやうに、早く細君を持たせるとか、或は特別に妾でも置いてやるやうにしやうかと思ふてゐるが、どうしたものであらうといふ相談を受けた。之は矢野氏の論理から言ふならば、いふ迄もなくお置きなさいと言つて勸めなければならぬ。何となれば情慾の强いといふ事は、靑春の血が燃ゆる十七八歲の學生時代が最も激しい時期であらうと思ふ。此時期にある學生に對して、何故矢野氏

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

は其人の情慾を滿足させるやうな途を講じて吳れないのであらうか。それは流石の論語崇拜家も已むを得ないのであつて、青年はどうも仕方がない、學生中に其麼事を考へてはいけない、學生はよろしくさういふ事は打棄てゝ勉強しなければならぬと言つて居られる。之は元よりしかあるべき事で、私も贊成するのでありますけれども、矢野氏の議論としては矛盾極まつた話であると思ふ。若し情慾が強いから男は少々放蕩してもいゝといふ議論が立つならば、何故青年學生といふものは、さういふ不品行をしてはならぬのであるか、若し、青年學生は學問の時代である、研究の時代であるから之を節しなければならぬといふ事であるならば、此論理を以て云へば大人でも私共は何時までも研究中である、いつ迄も修養中である、殊に我々は子孫といふものを自分より良くしなければならぬといふ處の、社會全體に對する義務から私共は飽迄自分の身に節制を加へなければならぬ必要があるのであるから、青年が情慾を愼んで行かなければならぬと同時に、大人の男子といふものも情慾を愼んで行かなければならぬ必要があるであらう。此點に於て、矢野氏の議論は論理に適つてゐないものであると云はなければならぬ。

（八）矢野氏と共に世人の誤れる金儲

第●二●は職業卽ち金儲に就てゞある。此方は稍論理が立つてゐるかと思ふが、どうしたものか矢野氏は非常に舊思想家を嫌つて居るやうな風が見える、男尊女卑といふ事が大嫌である、男子も女子も同じであると言つて居らるゝ、成程それは論理は通つてゐるやうであるが、一度其論旨を見ると諸君は餘りに諸君は矢野氏の大膽なるに吃驚せらるゝであらう。其論旨は如何なるものであるかと云ふに、男は金を儲けて女を養つてゐるから少々不品行があつても差支ない、とは前に述べた所であるが、然らば若し女が非常に金を儲けて大金持になつたらどうかといふ議論である。氏は女が金を儲けるやうになつたらどうか自由にしておやんなさいといふ。成程さういはるれば論理には適つて居るかも知れぬが、それにしても隨分思ひ切つた亂暴な議論ではないかと思ふ。思ふに矢野氏は斯かる議論を吐いても女の金持は當分の中出來まいといふ先を見越しての議論ではあるまいか、眞面目に論ぜらるべき議論ではない。尙私は職業金儲といふ事に就て少しく批判を試みたい。

私は今日の實際は　恐らく矢野氏の所論は天下の輿論であらうと思ふ。併しこれ等は獨立する事の出來ない女子の現在のみを見てゐるのであるが、私は是からの先の女子は獨立の生活をすること、若くば經濟上獨立するといふ事は大に必要であらうと思ふ。女の腕一本で經濟上獨立するだけに敎育するのは確に必要である。けれども金を儲ける所の者が非常に權力があつて、どんな我儘をしても差支ないと信ずる事は出來ない。假令世が顚倒して女子の方が大金を儲けるやうになつた處で、決して婦人が不品行をする事が出來るものではないといふ事を辯じて置かなければならぬと思ふ。抑金を儲け

1—910

るといふ事が世人に非常に誤解せられてゐるらしい。富といふものは決してぴか/\光る金銀のみを指すのではない。富を作るといふ點からいふならば、私は男も女も同じことであると思ふ。女が裁縫をし、掃除をし、洗濯をすることを一々勘定に見積つたならば大した額である。若し亭主が一年間二千圓の收入があるものとすれば、妻は家にあつて十二時間も働いて、其勞働したる賃金は少くとも八百圓乃至一千圓に見積らなければならぬ。之を見積らぬ經濟學は今日の世の中に通用しないのである。或經濟學者が云つた通り、英國などに於て女子が働いてゐる所の無形の富を打算したならば、必ず男子の半分若くは三分の二位に達して居るといふ事である。此點より論ずるなれば決して女子が働いてゐない金儲してゐないといふ事は言ひ得らるゝ事であらうかどうか、若し裁判所の判定を仰ぐ事とすれば女子の方が勝利を占むる事疑ひないのである。

（九）矢野氏と百五十年前の經濟學

今日は男子が役所に務め、月給を貰つて家へ歸つて來ると、一家中では之を重んずる氣風がある。併し此氣風たる昔もやはりあるやうで、何でも物を作る者が世の中の尊敬を受けてゐた時代がある。其點からいふと百性は偉い、百五六十年も前の經濟書を繙くと、農夫若くは製造者の如きを以て經濟學の中心としてゐる。農夫が實際に生產的の働をするのであるといふ。物を作らない者は他に優れた技能を有つて居つても、それは不生產的人物として取扱はれた。商賈人であらうが敎育家であらうが、學者であらうが皆物を作らないから不生產的人物として見做されてゐた。矢野氏の如きも百年前はお氣の毒乍ら不生產的の人物であつた。氏は銀行の重役や保險會社の重役をして居らるゝ方であるが、銀行とか保險會社といふものは其當時にあつては不生產的で、昔の百姓の眼から見て、我等の力を以て喰つてゐる寄生蟲とでも言はれてゐる人間なのである。併し世の進歩は決して農夫や製造者のみを以て、生產的人物なりと稱する事は許されなくなつた。互に持ちつ持たれつしなければならぬ。假令商賈人は直接生產はせなくとも今日では立派な生產的人物である。昔と今日とは非常に違つて來た。然らば矢野氏の說くが如く、婦人は不生產的の人間である、金儲をしないといふが如き議論は、今日の實業界に働いてゐる矢野氏は今から百五十年も前の經濟學を捉へ來つたものと見える。誠にお氣の毒な次第と云はなければならぬ。男子と女子とは之を經濟上の關係より見て何等區別のないものである、一方は定つた月給を持つて歸つて來るといふ丈で、一方と雖一家を經營してゐる以上は生產者である。どちらが金を儲ける等といふ議論は決して云へるものでない。

斯く考へて來ると、矢野氏の言ふ所は極めて根據のない議論で、其藝妓を必要とする二要點が、共に識者の一顧にだも値せぬ、時勢に後れた迂論であるといふことが出來やうと思ふ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

輿論の聲

廢娼問題の根本義

道の友 (天理教機關)

廢娼問題の世間に喧傳せらるゝ必ずしも今日に始まれるに非ず、然れども昨春祝融氏の芳原遊廓を全滅するや、平素廢娼を主張するもの廢娼に趣味を有するものゝ好機逸すべからずとなし、各々競ひ立ちて、諸種の方法により盛に廢娼運動なるものを起せり。彼の救世軍の如きは、從來廢娼運動の本家本元とし自らも任じ、人も許しつゝあるものなるが故に今回の機會を利用し、最も機敏なる方法を講じて運動の効果を奏せんとし、人をして巧妙なる活動振りに感服せしめぬ。東京の某々基督教會に於ては數回の廢娼演説會を開くあり婦女新聞社は基督教青年會に於てこれが爲め大演説會を開催して大に輿論を喚起せんとしたるあり。其他一女性にして公娼存置の有害なる個條を列擧し、これを内務大臣に上書して廢娼の速かならん事を欲するものあり。個人として新聞又は雜誌紙上に廢娼意見を發表し、其實行を促すものあり。是等は主として基督教側の人々によりて主張せらるゝ如しと雖も中島(德)文學博士の如き南條文學博士の如き佛教家、倫理學者を初めとし地位高くして經世に志ある人、官吏、政治家、教育家、操觚者にして基督教徒と歩調を同うし、これが實行に勉むる者決して二三に止まらず。而して南條博士は鏘々たる佛教家を以て異教徒たる基督教徒と席を同ふして、其運動に參加せられたるは、人道の爲、宗派の異同を眼中に置かざるの行爲として世の最稱讃せし處也。而して各人の論ずる處一樣ならず、或者は公娼の存置せらるゝは國家の體面を穢すものなりと云ひ、或者は女性の一大耻辱なりと云ひ、或者は不潔病の製造所なりと云ひ、青年墮落の最大原因なりと云ひ教育の障害なりと云ふ等、其主眼點には千差萬別ありと雖も歸着する處は全然廢娼するか大々的縮少をなすか、其一を採るべしといふにあり。そは兎まれ角まれ、これを概觀するに今回の廢娼運動なるものは、彼の名譽の爲に何々議員に選擧せられん事を欲して騷ぎ廻る浮薄なる政治的運動の如き一時的お祭り騷ぎ的の運動にはあらずして、今少しく根據あり理由ある眞面目なる運動にして比較的世間の視聽をそばだつるに足るの問題なるが如し。然かり而して其聲の大にして運動の範圍の廣きにも拘らず、容易に實行せらるゝに至らず、恰も陸上にありて遠く洋中に漂へる難破船に向つて救助を與ふべしと叫ぶに似て、誠に隔靴搔痒の感なき能はず。此間に處し我が天理教徒は默々として數萬金を惜まず、同胞幾十人の娼妓を開放し、或は嫁せしめ、或は實業に就かしめ、或は父

母の膝下に歸らしめて、信仰の立場より全然廢娼の實を行ひたるの快心事は本誌東京記者の筆により、前號誌上に於て普く天下萬人の知悉せる處なるべし。能く言ふもの能く行はずして能く言はざるもの能く行ふ、蓋し古來の一眞理なるが如し。

惟ふに廢娼の事たる語るべくしてこれを實行する甚だ容易にあらざるなり。廢娼を主張するもの、これを存置するは歐米に比して國家の體面を汚すものなりと云ひ、婦人の面目を凌辱するものなりと云ひ、國民保健の上に大害ありと云ひ、青年訓育上の障壁なりといふ。これ一として廢娼の理由とならざるものにはあらざれど、この制度の存するや、固と深く生類の『生』に根ざして極めて强烈なる慾望の發現したる一個の確實なる社會現象なり。性慾の發現はこれを美にしては麗はしき人情となり、詩歌となり、文章となると雖も、若し一度過まてば名譽、財產、道德、習俗、歷史等あらゆる地上の存在物を犧牲にして顧みざるの特性あり。斯の如き强烈なる慾望の發現したる一個の確實なる社會現象を、地上より全然埋沒し去らんとするの理由として體面と云ひ、汚辱と云ひ保健と云ひ、訓育と云ふが如き薄弱なる武器をかざして、問題の根底に解決を迫らんとす。恰も炎々として燃ゆる烈火に向つて一柄杓の水を注いで以てこれを打ち消さんとするにあるが如きか。斯の如く病源極めて執拗にして複雜なるが故に、如何に躍氣になればとて、即今急速に其解決を望むべきにあらず。果然東都に於ける廢娼運動は持久說として現はるゝに至れり。報導子は吾人に其消息を洩して曰く（とて廓清會設立の事に就て記し）

此報導にして誤りなくば廢娼運動に熱心なる人々の用意や誠に至れり盡せりといふべく、吾人は敬意を表して此等事業の圓滿に成功せん事を希望するものなり。然り而して吉原大火に際して何人にも先立つて最も有効に不言實行を敢てしたる我天理敎徒は、此等の運動と相對して今後如何なる方策を立つべきか、吾が徒は深く『生』の根底に根ざせる執拗にして複雜なる病源を艾除するが爲めに、在來如何なる手段を採りて快刀亂麻的の解決を與へたるか、曾て之が爲に我徒の政府に請願書を提出したるを聞かず、公開演說會の開かれたるを聞かず、機關雜誌の發行せられたるを聞かず、相談會の開けたるを聞かず、これを換言すれば一切の運動、手段方法等によりて解決せられたるものにはあらずして、天理敎的信仰の眼光次第に當業者の胸中に輝きて自から其營業の人として、少くとも天理敎的信仰を有する者として到底繼續するの苦痛に忍びず、偶ま祝融氏の見舞ふに際會し、斷然之を廢業し、

『年來の宿志を果した譯ですから、廢業以來といふものは非常に精神も爽快な感じられまして、俄に新らしい天地へでも生れさして戴いたやうな氣持ちが致します。それですから吾々に取つては、今回の火災は神樣が吾々を塵の中からお救ひ出しになられたかと思はれて感謝に堪へぬ次第であります。』・

とは中米樓主人の談話の一節なるが、固より氏の此擧を敢てしたる敎會の指導したるが爲にあらず、他人の勸誘に俟ちたるが爲めにあらざるは動かすべからざる事實にして、而して此が爲に多額の資金の消費せられたるを顧みず、尙其上に『今

回の火災は神様が吾々を塵の中よりお救ひ出しに―なられたものと信じて感謝を捧ぐるに至つては、宗教的信念の麗はしき發露として、吾人は其至誠に感じ、涙の流るゝを禁じ得ざるものあり。

吾人天理敎徒は、世界一列は兄弟同胞なる事を信じ、共に神の子なるを信じ、身體は神のやかたなる事を固く信ず。この信仰を體して彼の公娼なるものに臨み、其不衞生なるを思ひ、其の道義を無視するを思ひ、其貴き人身が性慾の犠牲に供せらるゝを思ふては慄然として其殘忍に恐れ、惻々として同情の念に堪えざるなり。故に宗敎的信仰の第一義諦に立つものは、春雪の陽光に觸るゝが如く、こゝにも亦不知不識の間、自からかゝる問題を解決して餘りあるべしと信ず。吾人は必ずしも世の廢娼運動を非議するものにあらず、然して又同時に運動といふが如き一片の形式により成功の完きを期し得べしと信ずるものにあらず。要は衷心の自覺問題にして信念の涵養の益々緊要なるは、今回の廢娼問題に逢着して今更の如く切實に感ずるもの也。世の喧囂を極むる所謂大問題に對しても、吾が徒の行くべき道は明に示されたり。先例茲に開かる、後より往くべきもの又これに倣ふて可也。必ずしも世の賢明なる識者の驥尾に附して大聲疾呼するを要せざるべし。

記者曰く、此評論といひ、次の議論といひ、尤も至極な點もあるが、遺憾ながら、吾人の主張しつゝある廢公娼論の要點を捕へて居らぬ。どうぞ注意して吾徒の主張を御研究あらんことを乞ふ。

公娼全廢否乎

千葉東海新聞

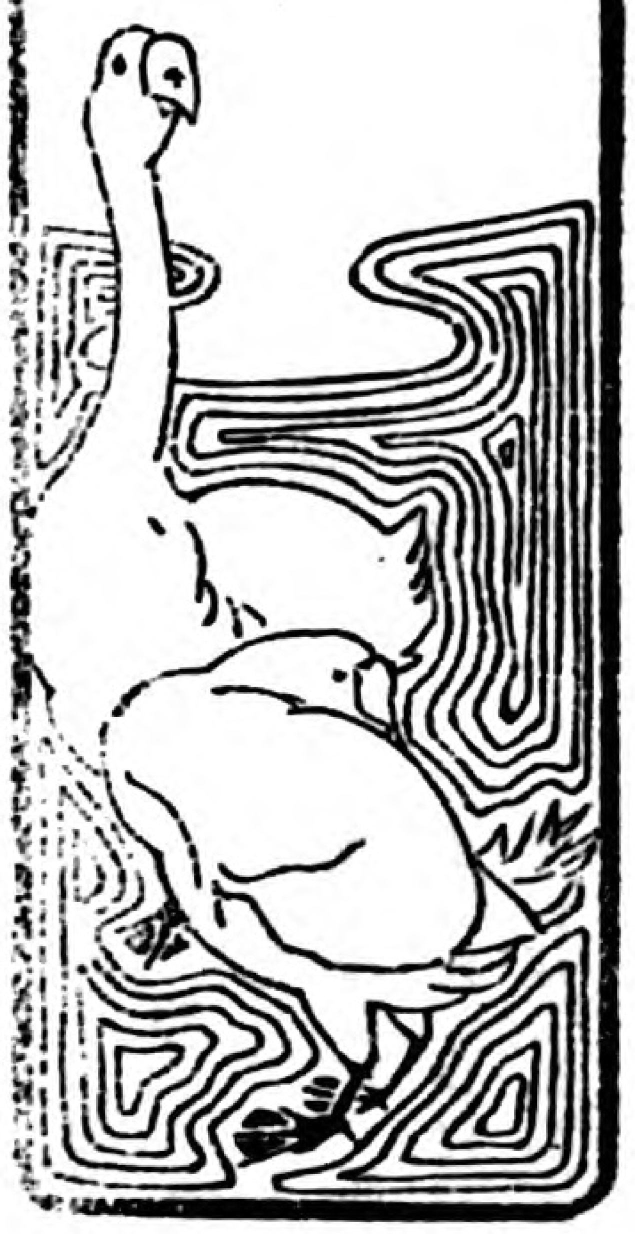
人生問題は、一時、例の文士仲間に八釜しかつたが、今では何の形もなく解決も着けられず、有耶無耶の裡に忘られて了つた。けれど、解決は着けられなくとも、少くとも人生そのものに對する解釋は、自ら進んで來るに違ひない。すれば從つて、社會に及ぼす裨益は尠くないであらう、私はこの問題に關しては、恁う云ふ意味から贊成して居る。

彼の吉原遊廓の全燒して時、此儘に吉原遊廓の再興を許さずに、これを全滅させて、漸次公娼を全廢する樣にしたい、然うしたなら社會改善上に大なる效果があるであらうと或者は主張した。或新聞は此公娼問題に關して各方面の名家の說を掲げた。其中に或る名士の夫人などは。公娼の存在するは同性の屈辱であると迄云つて、公娼全廢は此際是非とも斷行する決心で、吉原遊廓の再興を許さぬ樣にして欲しいと云つた。成程、この公娼の存在するは、身婦人として、多少の學識ある者の同性の屈辱と存するに無理はない。又これを全廢したならば社會に及ぼす裨益の尠くないのも聞える。けれど私は公娼全廢論を唱へやうとする前に、否、公娼問題に就て研究する前に當りて、是非共社會が怎麼具合に成立つてゐるかに就て、又は社會を組織して居る人間各自の頭腦は、如何に種々なるものなるかに就て、大に研究しなければならぬと思ふ。而して其研究は眞摯でなければならぬ。忠實でなければならぬ。公平でなければならぬ。偏しては不可ぬ。不眞面目では不可ぬ。そして公娼が全廢された結果が、果して社會改善上に裨益する處があるかに就いて、私は懸念に堪えないのである。

けれど此懸念に堪えないのは私の研究が足らぬからで、實際複雜した社會に何事も容るゝ事の出來る、公平な頭腦を突込んで見るならば、この懸念ある唇に私計りではあるまい。既に在ると云ふ事を取消するは、絶對の力でなくては能はぬ事だ。而して唯強制的に全廢を斷行すれば、斷行した後の結果は怎うであるか、私は、全廢論は實際云へば解らぬが、全廢を唱導する精神には贊成せずに居られぬ(白扇)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

雑誌の雑誌



崩御彙報

◉倚廬渡御の御儀

来る二十一日天皇陛下親しく行はせらるゝ宮中の御大典倚廬渡御の事に付ては、世間往々誤り傳ふるものあり、中には甚しき誤解を抱く者も少からざるが、今某宥職家の説く所を聞くに、倚廬渡御の御大典は歴代の天皇何れも親しく之を行はせられ、宮中御喪事としては最も重き御儀式なり、故に他の御大喪儀御次第を仰出さるゝと同時に、此の事も其中に加へさせらるゝを例とし、今回は數十日間後れて之れを仰出されたり、倚廬とは廬に倚るとの意にて廬は即ち草廬の義なり所謂竹の柱に茅の屋根と云ふ事なれば、殿上にあるものにあらず、故に上古は御陵の側らに草廬を結びて天皇親しく御參籠ありたるが如き誤りすら傳へらるゝに至りしものならんが、特に御陵の側らに草廬を結ばせられたる譯にもあらず、其御心持にて歴代の天皇は何れも先帝御埋棺後宮中御學問所の上、中二段の間の御床板を徹去し、地下一丈餘を掘り此所に青竹の柱を樹て下に竹簀を作り、其上に御帳臺を設け、此れより山陵の方向に御拜禮あらせられたるなり、古實には倚廬殿とは言はず單は倚廬と稱し、廬殿にあらず、又廬は草廬にして廬殿との熟語なし、廬に倚る義にて廬殿に倚る義にあらず、劔璽の渡御ある點より拜するも、廬は通常の殿上にあらずして其別所たるを知るべし、劔璽は陛下別所に御動座あるにあらざれば渡御あらせられざることを例とせり例へば陛下輦轂の地を離れさせ他所に御動座相成る時、(大演習地行幸の如き時)必ず劔璽の渡御あり、御歴代天皇の倚廬渡御の如き全く地下一丈餘の下に降らせられ、通常御殿上を離れ下界の別所に籠らせらるゝを以て劔璽の渡御あるなり、今回は御正殿を以て從前の御學問所の床下一丈餘の下界の別所を廬と見做し劔璽の渡御もある事と爲りたるなん、但し御床下丈餘の下界に渡御あらせらるゝ爲め、竹簀の上に御帳臺も左る事なるか、通常の殿上に高き御帳臺を置くは古例に見えず、若し殿上に於て倚廬渡御の事を行はせらるゝとせば、四方拜の御時の如く、御廂外其他一段低き所に御帳臺を置き奉る事と爲るにはあらずやと思ふ云々（時事）

◉即位式と大嘗祭

先帝陛下には七月三十日午前零時四十三分を以て御登遐あらせられ、午前一時　今上天皇陛下踐祚劔璽渡御の式を行はせ給ひ、玆に大御代をしろしめさるゝこととなりたるが、登極令第四條に「即位の禮及大嘗祭は秋冬の間に於て之を行ふ」「大嘗祭は即位の禮を訖りたる後續て之れを行ふ」と規定せられ、第五條「即位の禮及大嘗祭を行ふ時は其事務を掌理せしむる爲に宮中に大禮使を置く」との條項あり次に即位式及大嘗祭を行ふ期日は宮内大臣、國務各大臣連署を以て之を公告すとありて、大嘗祭の前一日特に鎭魂式を行ふことを規定せられてあるも、諒闇中は即位式及大嘗祭を行はせられざるを以て見れば、今上天皇の所謂諒闇中とは一年の御服喪期、即ち明年七月二十九日に於て御終了あるべきものにて、登極令の規定通り秋冬の間に即位式を行はせらるべしと、推斷し奉りて差支なかるべきかと信ず、然る上は大嘗祭は新嘗祭の日に於て行はせらるゝ御一代中の最も重き大禮に屬するにより明年十一月廿三日の新嘗祭相當日に御擧行あるべきは、動かすべからざるものと見て誤なかるべく、隨て其前に京都に行幸御即位の大禮を擧げさせらるゝとすれば、十一月の中旬なるべく、歐米各國の帝王が戴冠式を行ふと同樣の大禮式なれば、各國よりも夫々御名代又

は代表者を差遣はさるべく、京都は實に未曾有の盛況を呈すべきかと、宮中に多年奉仕したる某伯爵は語れり。(朝日)

噫ブース大將

◎飛電悲報を齎らす

老大將が去る六月左眼に手術を受けられた時、一旦は其成功を傳へられて喜こんだ日本の救世軍人は、間もなく

成功とは唯一般の健康上にさしたる障りもなく、無事豫定の手術を遂げた丈のことであり、其後局部に影からざる炎症と共に伴ふ劇しき疼痛を覺え、其が爲終に全く其明を失はるゝに至つたとき いた時、萬一此樣な事の爲に大將の活動が妨げらるゝこととなれば、或は萬一のことになりはせぬかと、寄々に心を痛めたことであるが、爾來幸にして略順調の恢復を遂げて居らるゝ由をきゝ、聊か愁眉を開くといふ誠に一喜一憂の有樣であつた。

憩て大將の健康は益〻快方に向ひつゝある。七月廿七日のアレキサンドラ宮殿に催まるゝ救世軍創業四十七年の大會には快復後第一回の出陣があるといふ樣な廣告も見えた。

其樣ならば先づ大丈夫に違ないと、影ながら祝つて居たのも徒であつた。此に復不測の變化が起つて來たのである。

然るに超て七月廿日頃に至り、アレキサンドラ宮殿に出陣の發表は、何日か取消され、恢復はしつゝあるものゝ、極めて遲々たるものであるといふ樣なことが傳へられた。

殊に其少しく前から急に劇しくなつた暑熱は、何ものにも超えて病床にある大將を苦しめた。而して切角恢復に向ひつゝありし大將の容態を、再び險惡に陷らしめたのである。

丁度其前後のことである。密封したる一通の書狀は萬國本營から届いた。而も更に電報が來る迄開封してはならぬと云ふて迄も附記してある等、何事か一大事の伏在し居るた邪推せしめるものがあつたが、

去廿一日書記長官山室大佐は折柄士官學校にて在京士官の爲に士官會を司つて居られる最中、一通の赤紙電報を受取られた。而して之ぞ愈〻彼の恐るべき宣告を齎らし來つたものである。

暗號簿は取出された。大將の昇天は最早拒む可らざる事實となつてしまつた。

急使は四方に飛び、銀座の本營は忽ち戰場の樣な騷ぎとなつた。電報を全國の各小隊及事業部に打つ、手紙を出す。來訪の各新聞記者に應接する。漸く一かたついたのは、深夜の十二時近い頃であつた。

斯くて一方昇天の通知に忙しき間に、早くも前の電報を受取つた向々からは、續々として誠意をこめた弔電が届く。翌朝は又郵便受が弔辭で一ぱいになつて居る。或は態々來つて弔辭を述べられた方々も尠くなかつた。(ときの聲)

◎ブース大將葬儀

ブース大將の葬儀は其葬列者の多き英國未曾有の事なりと〻敦電報は傳ふ

靈界の運動を現代に復活せしめたる者はブース大將なり、コスモポリタニズムを最も有効に實現せしめたる者はブース大將なり。最初は輕侮を以て迎へられ、今此盛儀を以て送らる、我宗教界の人士少しく彼に倣ふの行爲あるを要す(萬朝)

◎ブース大將實歷談

山室軍平

(一)多方面の人

日本の臣民としては前に叡聖文武なる先帝陛下を哭し奉り救世軍としては更に其總督ブース大將の昇天を惜まればならぬことゝなつた。今年は私共に取つて眞に涙の多い年である。

ブース大將の昇天の事に就ては折柄御大喪に關する記事の輻湊して居る場合であるにも拘らず、各新聞紙上に隨分詳細なる報道を見た。が此際もつと精しくブース大將の人物、事業、實歷等に關する記事を東京日日紙上に揭げ度いといふ交渉を受けたに就き、それは私共の方から願うてもなき幸と、直ちに御引受けすることになつたのである。然るにブース大將の一生涯八十四年間の出來事は隨分複雜であるから、どこから語り出でたら可いかに思ひ惑ふのである或人がグラッドストンの事を語りて、詳細に彼を知らうと思ふならば其爲に一つの合名會社を設けて取かゝる必要があると言ふたさうであるが、ブース大將の事も亦然うである。彼は心靈界の巨人である。彼の教導に由て罪惡より救はれた新しき生活に入りたる者は幾萬人あつたか知れない。彼は大なる社會改良家である。失業者、病人、困窮民、惡漢無賴の徒の彼に由て幸福に世渡りをする樣になつた

例しば、數へ切れない程多い。彼は著述家である。其數十卷の著作は彼の部下の軍人が殆ど經典の如くに尊信して居る所のものである。彼は講壇の勇將である。近頃彼の如く熱烈沈痛なる雄辯を以て人を感動せしめたる者は少ない。彼は人民の主動者である。又大なる事業家である。世間の人は彼を稀なる成功者、立志傳中第一の人と言ひ、私共の間では又彼を近代に於て基督に似たる最大の人格であると推尊して居るのである。彼は眞に多方面の人、最も複雜なる生活事業を營みたる人物であると謂はればならぬ。

とはいへ、私は其多方面、又複雜なるブース大將の生涯を遺憾なくこゝに紹介し度といふ樣な抱負はさら〳〵ない。唯自分が彼に就て知る限りに於て、極めて一般的に誰にも興味のありさうな彼の實歷性格及び事業など、一通り述べて見たいと思ふだけのことである。それさへ平生の不文の上に軍務多端の折柄とて、一向滿足なことが出來さうにもない。唯精々努めて見やうといふより外はないのである。これを緒言として明日から大將の實歷に筆を染むることゝ致したい。

(一)少年時代

ブース大將は其名をウイリアムといひ、西歷千八百二十七年即ち我が文政十二年四月十日を以て英國ノツチンガム市に生れた人である。ノツチンガムはレースの製造を以て有名な所で、「男一人に女七人」といはれた位女工の多く住む工業市である。父サムエルは實業家にて一時相當の財產を造つたけれ共まだ不幸にして之を失うてしまふた。而してウイリアムが未だ漸く十三歲の頃早く他界の人となつたのである。母のメリーは敬神の念篤く、頗る慈善心に富み、精神堅固なる婦人であつた。「ブース家に立寄る乞食が空手で歸つた例がない」とは其近所の評判であつた。然るに前言ふ如くブース家では其稼人がなくなつたわけであるからウイリアムは十四歲にして早く學校を退き、或商家に勤務して幾らかの給料を貰ひ、それにて母と二人の姉と四人暮の家計を助ければならぬことゝなつた。其頃のウイリアムは利發ではあつたが世俗的なる寧ろませた方の一少年に過ぎなかつた。浮薄なる少年輩と交はり、又小說を讀むとが好きで一日の中に三冊讀み通したことなどもあつた。それが或夜二三の友人と散步する時圖らず或教會に特別の大集會があつたので何の氣なしに入つて見ると折柄有名なる說教者マーデンと云ふ人の說教の最中で、非常な人込みの爲め、顏はよく見えなかつたが其銳い力ある聲は耳に入つた所が其れが腸にしみ渡つたのである。「諸君時計の音がコチコチと響く度每、世界の何處かに此世を去つて永遠に旅つ人がある。恐らく斯く言うて居る間にも其平生の罪惡故に死んで永遠の滅亡に至つた人があらう」と。其沈痛熱烈なる警告は年若きウイリアムを動かすこと甚だ大なるものがあつた。其後彼が愈基督を信仰し、今から後自分の身はどうなつても一生涯唯神の御旨を爲すため、又世の人を益する爲めに獻げます る淚の祈りを以て誓ふ樣になつたのは、彼が十五歲の時のことであつた。一體昔から豪い宗教家、人道の戰士などいはるゝ人々の中には、十五六歲から二十歲位迄の間に早く其方面の事に發心したものが多い樣である。所謂「汝の若き日に汝の造主を憶えよ」で、少年時代の純粹無垢なる、善にも惡にも染り易い頃、逸早く道に志ざすことの大切なるは、それにつけ之も思ひ合さるゝ次第である。

ウイリアスの少年時代に著しい感化を及ぼしたる一人物があつて、それは米國人の說教者にてジエーム、カウエーといふ人であつた。彼が或時ノツチンガムに來て數日引續き大集會を試みた時、ウイリアムは每會出席して其高尙熱烈なる人格に敬服し、殊に其通常の宗教家が兎角鑄型に箝まつた樣な振のとは違ひ所謂「潔められたる常識」を用ゐて人を敎化する溌々した働き振に打込んだのである。而して心竊に自分も行く〳〵は何卒彼の如き力ある心靈界の人となり度いといふ大望を抱く樣になつた。

「青年よ、汝は誰を嘆美するか、請ふ我に告げよ。さらば我汝の才能如何、趣味如何、品行如何を汝に告ぐべし」といふことがある。少年青年の胸中に理想として仰ぐ人物が、どんなに彼等の上に至大の影響を及ぼすものかといふことは、ウイリアム、ブースの場合に於て其最も適切なる實例を見たわけである。

(二)信用すべき店員

大說教者カウエーが去つて後、其燃ゆるが如き赤熱的の說教に感動したる數人の青年輩は、夜々相

攜へてノッチンガム市の貧民窟に赴き、其あたりの困窮民、無頼漢等に對して路傍傳道を開始することゝなつた。其頃ウイリアム、ブースは重い病氣に罹り、一時は命にも關るかと心配した程であつたが、少しく快方に向ひかゝつた時、右の少年傳道隊の連中から一通の手紙を受取つた「早く全快して、來つて我等の貧民傳道を助けよ」と。是に於てブースは漸く床を離るゝと直ぐに出かけて其仲間に加はつたが、衆望の歸する所「彼は間もなく推されて其一隊の首領の如き有樣となつたのである。アブラハム、リンコルンの說に「神は平民を愛し給ふに相違ない、何んとなれば彼等は大多數だからである」とあり。平民の政治家ジョン、ブライトは又「眞正の人民は茅屋の裡にあり」といふて居る。昔から慧眼愛腸の人々の先づ目を着けたる者は平民である、貧民である而してまだ漸く十六七歲の一少年、ウイリアム、ブースが、其頃から早く旣に貧民弱者の爲めに働き始めたといふのは、注意すべき事である。「彼は初めより貧民に據へり」と、彼の傳記の一作者が言ふたのは、實際の事實であつた。

とはいへ、其頃のブースは未だ主人持の身である朝の七時から晚の七時迄十二時間主人の家に勤務した後では、友人と一緒に、貧民窟傳道に出かけるのであるから、それは仲々容易の骨折ではなかつた。お負に折角それ程の苦心をした後、勤め先では朋輩から色々惡口雜言をのみあびせかけられるのであつた。或日朋輩等は例に由つて頻りにブースを冷かし其貧民傳道を嘲つて居るところへ主人が出て來て之に加はり。果はブースを罵つて、「お前の樣な人間は今に乞食にでもなつて死ぬる位が落ちであらう、いつそ今から出て行つて乞食にでもなれ」と言うて之を戶の外に突き出して辱しめた。ブースは從順なく家に歸つて其の始末を母に告げると。「それはお前が宗敎に熱心し過ぎるからである」といふて、こゝでも十分の同情を受けることが出來なかつた。が併しながら貧民傳道に熱心な事の外にはブースに何等の申分があつたわけではなく、却つて彼の如き眞實で且は仕事にも行屆いて手ぬかりのない奉公人といふは他にないのであるから、主人は直に自分の濫罰を後悔し、一週間經たぬうちに自らブース家を尋ねて來て其お詫をなし、今一度ブースを其店に來て貰ふことゝなつた。而して其以來はこれ迄に幾倍する信用を以て彼を扱ひ、程なく主人が佛蘭西の巴里に遊んだ時の如き、每日數千圓の金錢の出納を一切まだ漸く十六七歲のブースに任せて安心して出て行つたといふことである。

ブースは斯く商家に勤むる餘暇には早く貧民傳道に腐心したが、同時に彼は又自己の修養といふことを忘れなかつた。何分時間が乏しいものであるから朝々勤先へ往復の途上に書を讀み、又は晝飯後僅の休憩時間をさへ利用して一生懸命に善い書物を擇んで之を讀んだ。餘り勉強に身が入つた爲め運動不足を來し、爲に腸胃を害ふたといふのは、感心出來難いことであれど、また以て其過を見て仁を知るに足るべき事柄である。

(四)青年宗教家

ブースは滿二十歲の頃倫敦に出た。こゝでも郷里に居つた時と同じく或商館に勤めながら餘暇には一生懸命に傳道に從事して居つたが。何分都會の敎會の事で、働き人が澤山あるものから仲々說敎の順番か廻つて來ない。二月か三月に一遍位說敎させて貰ふので、救靈に大熱心のブースを滿足さすることが出來なかつたのは、當然の事である。「どうか私が自由氣儘に單獨で路傍傳道することを許して下さい」といふ樣なことを願ひ出でた。で誤解の種となり、何か敎會に不滿を抱き、不平黨の仲間にでも投じたい下心の如くに取り違へられて、彼は其屬する敎會から除名せられた。ブース傳の一著者が其事を論じて、「これは敎會が一人物を失うて世界が一人物を得たのである」といふのは、適評であると思ふ。斯くてブースは止むを得ず從來所屬の敎會を離れて他の一敎會に屬することゝなつたが、其敎會員に靴屋のラビッツといふ篤志家があり、ブースの宗敎傳道に熱心なるを見て自ら金を投じ、彼をして商館を辭して專ら宗敎の働に身を委ねしむる事となつた。其時ラビッツとブースとの間の問答が面白い。「貴君は一體幾らあつたら食つて傳道が出來ますか。」「左樣、一週間に十二志もあればパンとチースを食つて傳道するに不足はあるまいと思ひます。」「まさか十二志では、少く共二十志なくては」といふ樣なことで、ブースは靴屋の厚意により身を宗敎界に投ずることとなつた。ブースはパンとチースとあれば足れりと

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

して傳道に從事し得る人である。日本で言へば參飯に香の物さへあればといふ格であらう。彼に著しいのは此克己獻身の精神であつた。

或日靴屋のラビッツ家で晩餐會があり數人のお客が寄つた席で、主人はブースに向ひ。興を助ける爲に、先頃の彼の「酒屋の惡夢」といふ長篇の詩を暗誦しては吳れますまいかと申出た。これは禁酒を勸誘した意味の詩であつた。ブースが需に應じて之を暗誦した後で、話は禁酒の問題に集まつたのである。「酒はたんと飮んでは害があるけれ共、少しは可い」とか、「酒がなくなつたら國家は稅源がなくなつて困るであらう」とかいふ樣な議論をする人が多くあるのを見て。それ迄其母と共に庭の一隅に小さくなつて坐つて居つた一少女マムホルド孃といふ禁酒の熱心家が、たまらなくなつて靜かに其口を開いた。「まことに出過ぎた樣で失禮ですけれ共」といふのを前置に、內氣な少女は眞理を愛する單純無垢の熱誠に驅られ滔々として酒の害を語り出でた。曖昧な節酒家がある爲に大酒家を濟度しそこなふ事、酒の稅金で國家を支へるのは自分の腕の肉を食うて健康を維持し樣とする類である事、聖書の精神は確に禁酒を敎へて居る事など、論理明晰、材料豐富加ふるに非常な熱誠を以てし、說き去り說き來りて終に一座を說伏してしまふたのである。間もなく一同食卓に就いたが酒の支度はあつたにも拘らず少く共其夜は誰一人盃に手を觸れるものがなかつたさうである。而して此偶然の出來事からブースとマムホルド孃との間には互に敬愛の意を生じ、敬愛は軈て相思の情に變ずることゝなつた。マムホルド孃は後のブース夫人である。世間には「酒が取持つ縁」といふことがあれど、これは又「禁酒が取持つ縁」であつたのは亦面白い事であつた。

多數の孫に圍まれたるブース大將

(五)理想の妻

ブースとマムホルド孃との間に婚約は成立つたが併しながら其當時ブースはまだ漸く靴屋の厚意で宗教界に身を投じたばかりの身の上にて、もとより妻を娶るとか、家を成すとかいふ如き分際でなかつたその爲め彼等の婚約は實に滿三年の長きに亘つて持續せられたのであるが、其間彼等相互の交情は何處までも淸く、美はしく敬愛の情に滿つるものであつた。最もブースは其三年間、いつでも倫敦に居たわけではなく、色々前途の事を思ひ惑うて、彼の先輩をたづね、此の敎派に赴き種々方針に迷ふた揚句、スパルデング、ブリストル等の各地に招聘せらるゝ儘出かけて傳道に從事して居たのである。

マムホルド孃が婚約中にブースに送りたる書翰の中には、古人の傳記を讀んで其人格を養ふべき事を忠告し、嚴正禁酒の主義を取つて世に立たねばならぬことを勸誘し、或は修養の一方法として旅行中、書物と筆紙墨と蠟燭とを入るべき革囊をとゝのへ、いつでも携帶して人の家に泊つた時など、家人の起出ぬ間に獨り寢室にて强勉すべきことを推薦したるものなどあり。今から讀んでも却々面白い。殊に最も興味があるのは、其頃孃が折々說敎の筋書を作つて之をブースに送り、ブースがそれに由て說敎して大層うまく行たといふ樣な禮狀の遺つて居るのを見出すことである。

彼等の結婚は千八百五十二年(安政二年)六月、ブースが二十六歲の時に擧げられた。ブースは後日其妻の事を語りて次の如く言ふたことがある。

余は我妻たるべき者の資格を理想し、少く共それに近い婦人を見出す迄は之を俟つべき決心であつた。其資格は先づ神と正義と救靈の事業に對する

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

献身の事から始まり道德上、社會上、知識上の要性に及んだのである。余は此の如き理想を抱いて居つたけれ共、まさか今日自分の妻と呼んで居る婦人の樣に、それを一つ殘らず身に具へた注文通りの人に會ふとは想像しなかつたのである。彼女が如何に余の伴侶、戰友、又參謀として余を助けたかといふこと。又我子女の母として盡したかどいふ事は、天下の共に識る所である。余が若し幸に救世軍の父たる務を行ふたものとすれば、彼女は慥かに救世軍の母たる役目を盡したものである。

先年ブース大將が日本に來朝せられた時　彼の年は既に七十九にて、妻を喪うて後十七八年を經て居つたにも拘らず、演說といふ演說、講演といふ講演の中に、大抵いつも其亡妻の事を叙し、「マイ、ビユーチフル、ワイフ」と言はないことはなかつたのを見ても、亦以てブース夫人が如何に大將の生涯に大なる關係を有したかを察することが出來る。

「評論之評論」のステツドは或時ブース夫人傳を著はし、其中に論じて言ふ樣。十九世紀の英國に四組の理想的夫婦がある。どれも皆夫婦揃うて卓越の才であつたが、所謂天才相嫉む樣なことはなくて眞に幸福なる家庭を營むだ。其四組といふのは女皇ヴイクトリアと皇婿アルベルト親王、詩人ブラウニング夫婦、セノン、バツトラー夫婦、而してブース大將夫婦であるといふて居る。ブースは眞に好き内助者を得たるものである。

（六）人間改造所

昔クロムウエルは其部下の兵のうち出す彈丸が兎角敵の頭の上を飛び越すこと多きをみていつでも「下をねらへ／＼ねらへ」と命令して居つたさうであるそれと同じ樣にブースは又世の宗教道德に携はる者の調子が高過ぎ、其折角の骨折が多くは多數人民の頭の上を飛び越えて居るのを認めが終下をねらひつつ其布教傳道を試みたものである

それ故彼の言語は平易で、其働き方は又極めて實際的であつた。彼がグーツヘツドといふ地方に傳道して居つた頃には、名代の惡黨が化して善人となり道樂者が堅氣となり、懶惰者が稼ぎ人となり、彼の傍に寄りつく其の人々は皆改心して善人になる有樣であつた故、いつしか人々は彼の說教所の事を「人間改造所」と綽名するに至つたのである。

彼が後にコーンウオール地方に傳道したる十八ヶ月間には、改心者を得ること無慮七千人、或町では餘り多くの大酒飲が酒をやめ、無頼漢が律義者となつた爲め、曖昧なる居酒屋は顧客を失うてバタ／＼と閉店し、警察署も大閑になつて署員を他へ轉任させたといふ程であつた。

ウヰサルといふ町では、說教所は大きな建物であれど、上品な人は輕蔑して寄りつかず、下層社會は又窮屈がつて見向きもしない有樣であつた故、ブースはこゝに一計を案じ出し、或時二度迄傳道したる各地より折紙附の惡漢、無頼の徒、刑狀持、博徒、鬪拳、盜賊等にて今は信仰者となつて幾年來品行の全く變化した者共を連れ來り、或は野外に大示威運動を行ひ、或は街頭を行軍し、然る後教會堂にて特別集會を營みたるに、これより無頓着なる市民は忽ち覺醒して信仰に志ざす樣になり、其地方の宗教上の面目を一新したる如きこともあつた。

南阿弗利加の奇傑セシル、ローヅが或時渡英して救世軍の農業部など視察し、又ブース大將と打とけて物語をなしたる後、人に語りて言ふ樣「余はブース大將と會見して、我等の間に案外意見のよく符合する點あることを發見した。併しながら少く共こゝに一つ、我等の意見の根本的に齟齬せる所あるを發見したといふのは他でもない、余が「帝國」といふ時大將はいつも「救」といはるゝことであつた」と。思ふにローヅは帝國主義に由り、アングロサクソン人種の手を以て世界を經營せんと志したるものである。さり乍らブース大將は基督の宗教に由つて先づ人の靈魂を救ひ、靈魂を救ふことに由つて人を救ひ、人を救ふことに由つて軈て人種社會を濟度せんことを目的とするものであつた。所謂「先づ人を造れ、さらば彼等は其住居するに適する境遇を造らん」とは彼が適切に此大主義を言明したる語である。而して此人間個々の靈魂を救ふことを何より大事とする彼の大主義は彼が救世軍の運動に取りかゝる久しき以前より　既に之を各地方の人民の間に試みて、十分實驗を積み居りしものである事を知らねばならぬ。

（七）東　倫　敦

慶應元年七月二日の日　はブースの生涯と救世

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

軍の歴史に取つて永久に紀念せらるべき日である。何となればブースは此の日を以て始めて東倫敦の貧民窟に入り込んだのだからである。

其初め彼は二人程の紳士の招聘を受け東倫敦貧民窟に數週間の特別傳道を試むる筈にて出かけたのであるが行つて働いて居る間に彼が多年世の貧民弱者に對する同情と愛とは、此世界有數の大貧民窟の實況を視たことに由て更に一層燃え上つたのである。或夜彼は其集會を終へて宿所に歸る途中、不圖或居酒屋の前を通り、そこに瓦斯の光の下に多くの勞働者、無頼漢墮落婦人等が、打寄つて喧々囂々且つ飲み且つ罵り騷ぐ有樣を見たのである。此時彼は忽ち一大天來に打れた。「噫々世界何れの處にか復と此程の異敎徒といふがあらうか、又彼等に愈つて救を要する人民といふがあらうか。神よ助け給へ、余は此可憐なる同胞を濟度する爲めに一生涯を擲たねばならぬ」と。乃ち急ぎ足にて宿所に歸り、其夫人に言ふ樣。「我が愛する者よ余は今にして始めて余が一生涯の運命を發見した。余は今にして始めて余が何の爲めに生れ、又何を求めつゝ今日迄彷徨うて居つたのかといふことを悟つた。余は此告ぐるなきの窮民、罪人、極惡人を救ふ爲めに生き、又死なねばならぬ。これは余の使命である。余は余自らをも、卿をも、一切を擧げて皆其爲めに獻げればならぬ」と。

さりながら彼等の間には既に乳呑兒迄合せて六人の兒供があつた。今更何人の後援だもなくして身を貧民傳道に投ずるといふは、其實明日から何を食うて一家族を支ふべきか其方法もないことであるから一家の主婦たるブース夫人に取つては決して容易な問題でなかつた。けれ共流石はブース夫人である。決して其夫の折角の覺悟を挫くが如き挨拶をしなかつた。「貴夫が若し眞に然かお感じなさるならば其通りを決行なされたが宜しうムいませう。私共はこれ迄も幾度か生活問題を神に任せ、其所信を守りたる記憶もあること故、今一度同じ經驗を繰返すも苦しうございますまい」と。是に於て二人の者は同じ長椅子に倚つて共に眞實の祈を神に獻げた。而して世界的の大軍隊、救世軍は實に此兩人の祈禱の中より産れ出たるものである。

ブースは其初め「東倫敦傳道會」の名義の下に重にマイル、エンド邊の街頭に立ちて、通りがゝりの無頓着なる貧民墮落者に說敎し、感心してもつと其の續きを聞きたいといふものを誘ひ、友會派の墓地内に設けたる天幕に連れて來ては之を敎導して居つた。其間一夜暴風雨の爲め天幕は倒れる、帆布は切々に裂ける、他に致方がないので暫くは青天井の下で集會をなし、稍あつて後舞踏場を日曜だけ借りて、そこで會合を催す樣になつた。其後舊い倉庫だの、寄席の樣なものだの買ふたり、借りたりして集會に用ゐて居るうちに、續々改心者が起り、惡漢無賴の徒の悔改めて新しい生涯に入るものが引きも切らず、二三年經ぬ間に早くあちらこちらに多く此運動の支部を見る程になつた。

(八)平民傳道論

ブースの「東倫敦傳道會」は間もなく東倫敦以外に其働きが廣がり名と實とが相伴はなくなつた爲め、改名して「基督敎傳道會」と號するに至つたのは、我明治三年のことであつた。

彼が其最初の著述「平民傳道」を公にしたのは其翌明治四年の事であつた。これは理論は少くて寧ろ正直に過去數年間彼が英國の貧民窟に働いた事業を報告したるものであつた。今其書物を繙いて見るに彼が如何に有ゆる手段方法を採つて働いて居つたかを想像するに足るものがある。

其當時彼の事業の本部はホワイトチヤペルといふ矢張東倫敦の貧民窟にあつた。今其本部で如何なることを營むで居つたかといふことを見るに、曰く軒別訪問、曰く聖書其他宗敎書類販賣、曰く聖書講義、曰く禁酒會、曰く夜學、曰く日曜學校、曰く[illegible]學校、曰く讀書室、曰く一片銀行、曰く羊肉販賣、曰くコーヒー店、曰く肉汁賣捌、曰く救靈會、曰く母の會と、彼は手をかへ品をかへて大多數の不幸なる同胞の濟度の爲に在らん限りの力を盡したものである。

こゝにレイルトンといふ一青年があり、彼は美以敎會の傳道見習生であたが、熱烈勇敢何でも極度迄やり拔かねば心得の出來ぬ性分にて、常に普通の基督敎會の働き方に慊焉ず思ふて居つたが、或は一部の「平民傳道論」を得て之を讀み、非常に感動し、「今の代に若し斯ういふ精神方法にて神と人との爲に盡瘁して居る團體があるならば、それこそ余が命の棄所である」と。直ちに來つた身をブースの配下に置く

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ことゝなつた。その頃迄にブースの左右に在つて助くるものとては、多くは「無學の賤民」のみにて、同じ樣な仲間の者を導くには極めて適當して居るけれ共、少し物の分つた人々を相手にするには不自由の點が多かつた、併しながらレイルトンは高等の教育を受けた人にて數ヶ國の語を操り、文章が達者で、辨論にも長じて居つた。それ故彼が其時代にブースの仲間に加はつたことは其事業上非常なる手助けとなつたのである。レイルトンは即ち今の萬國巡回員レイルトン少將其人である。

基督教傳道會に多くの特色のあつた中にも其婦人の働きに重きを置いたことの如きは注意して置くべき事である。中にも「幸福エリザ」と綽名を取つた一婦人の如き世の宗教に無頓着にして罪惡の中に生活する人々を見るに見兼て、有らん限りの方法を用ひて彼等を警醒し、果は背中に「我は幸福エリザなり」と書いて長い旗を押立てゝ行軍する所迄やりぬいた。これが爲め居酒屋や、木賃宿、裏棚等の人氣といふものは非常であつた。而して彼女の到る處目醒しい惡黨の悔改むる者が引續き起り。後には全國中どこに行つても「幸福エリザ」の似顏をかいた繪草紙や、玩具の人形、砂糖菓子等を賣つて居ない所はない程になつた。

もとより女で此んな花々しい働きをした者は例外にて、概して言へば彼等は柔和と親切とを以て、貧民弱者の間に入り、之を慰め、之を教へ、之を導き戒めて信仰に入らしむることを其重なる特色として働いたものである。若し「大なる犯罪の下に婦人ありといふ諺が本統であるならば、大なる善事の下にも亦婦人なくてはならぬ。救世軍の今日あるは其婦人の働きを重要視したることが、一つの大なる原因でなくてはならぬ。

(九) 救世軍

明治十年の末つ方ブースは或日長男ブラムエル、書記官レイルトンの兩人に輔けられつゝ其事業の年報を認めて居つたが段々口授して「基督教傳道會は即ち義勇軍なり」といふ一節に至り暫く思案したる後言ふ樣「否々我等は神の軍隊の現役に在り當然の義務を行ふものにて、決して義勇と呼ばるべき性質のものではない」と。乃ちレイルトンの肩越にペンを取つて今書いた許りの「義勇」の字を抹殺し、代ふるに「救世」の字を以てした。そこで前の句は「基督教傳道會は即ち救世軍なり」といふことになつた。折柄基督教傳道會が日に〳〵其組織制度を改め勇猛剛健にして進擊に便なる軍隊的の編制に近づいて居つた最中とて、人々は恰も長く求めて居つた錠前の合鍵でも見付けたものゝ如く、此事實に相當したる好名稱を歡迎した。即ち初めの間は「基督教傳道會、一名救世軍」と認めて居つたのが間もなく「救世軍一名基督教傳道會」となり終には簡單に唯「救世軍」と名乘る樣になつた。これが今日世界に知れ渡りたる救世軍てふ名稱の起原である。救世軍てふ名稱に次で採用せられたるは「大尉」といふ稱號である。これは元煙突の掃除人より起りて成功せる救靈者となつたカドマン(今は少將)がホイットバイの漁民の間に傳道中、どうも傳道者だの先生だのと呼ばれたのでは水臭い、私はお前方の親分である、親方であると斯ういふ意味で自分の事を一船の船長と同じく「キャプテン」と呼ばせ、大に其地方の人心を聳動する樣な働きをしたのであるが、其事がいつとなく全救世軍の中に傳播し、あちらでも、こちらでも「キャプテン」が出來た處で、扨「キャプテン」を輔佐するものは何と呼ぶべきかといふ段になり「キャプテン」は軍隊の大尉といふ意味に通ずるので、それを輔佐するものは中尉、其上に立つものは少佐とか大佐とか呼ばるゝ樣なことになつたのである。或はブースを以て自ら大將と名乘りたるものゝ如く思惟するものあれど、それは事實を誤つて居る。彼は長らくの間基督教傳道會の「General Superinten-dent」(總裁)として知られて居つたが、傳道會が既に救世軍となり、傳道者が大尉中尉となつて後、彼のみ獨り總裁でも面白くないといふので、人々はいつしか其稱號の後半「Superintendent」だけ除き、彼のことを單にGeneral(大將と呼ぶ樣になつたのである。これは基督の徒がアンテオケ地方にて圖らずクリスチャンと綽名せられそれを其儘名乘つて今日に至りたると似た樣な事實である。

斯くて後間もなく基督の紅血と聖靈の熱火とを現はす「血と火」の軍旗を調へ軍隊を採用し、又軍服を着用するに至りたるは、極めて自然の進步成長である。ブース大將の言に「救世軍は生れ出でたるものにて造り出したるものでない」とはこの間の消息

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

を傳ふるものである。明治十三年士官學校を起し、其係員を養成することゝなつた。それ迄は事業を爲すに忙はしく人を採るに急にして熱心な信仰者でさへあれば大抵誰でも登用して其働きに従事させて居つたのを、此時から秩序立つて人物を養成する様になつたのは、これも救世軍の事業について最も記憶せらるべき事であつた。(東京日々)

●社會改良家としてのブース大將

ブース大將が「最暗黑の英國及其救濟策」といふ、有名なる書物を出版せられたるは、我が明治二十三年の暮のことである。其以來大將は、彼の書物に書いてある筋に由り、盛んに社會事業を營み、多くの困窮民を救濟して居らるゝ。今最近に大將の統率の下に營まるゝ社會事業部、一年間の統計を擧れば左の如し

●先づ「安宿及安料理店」の部より始むるに。

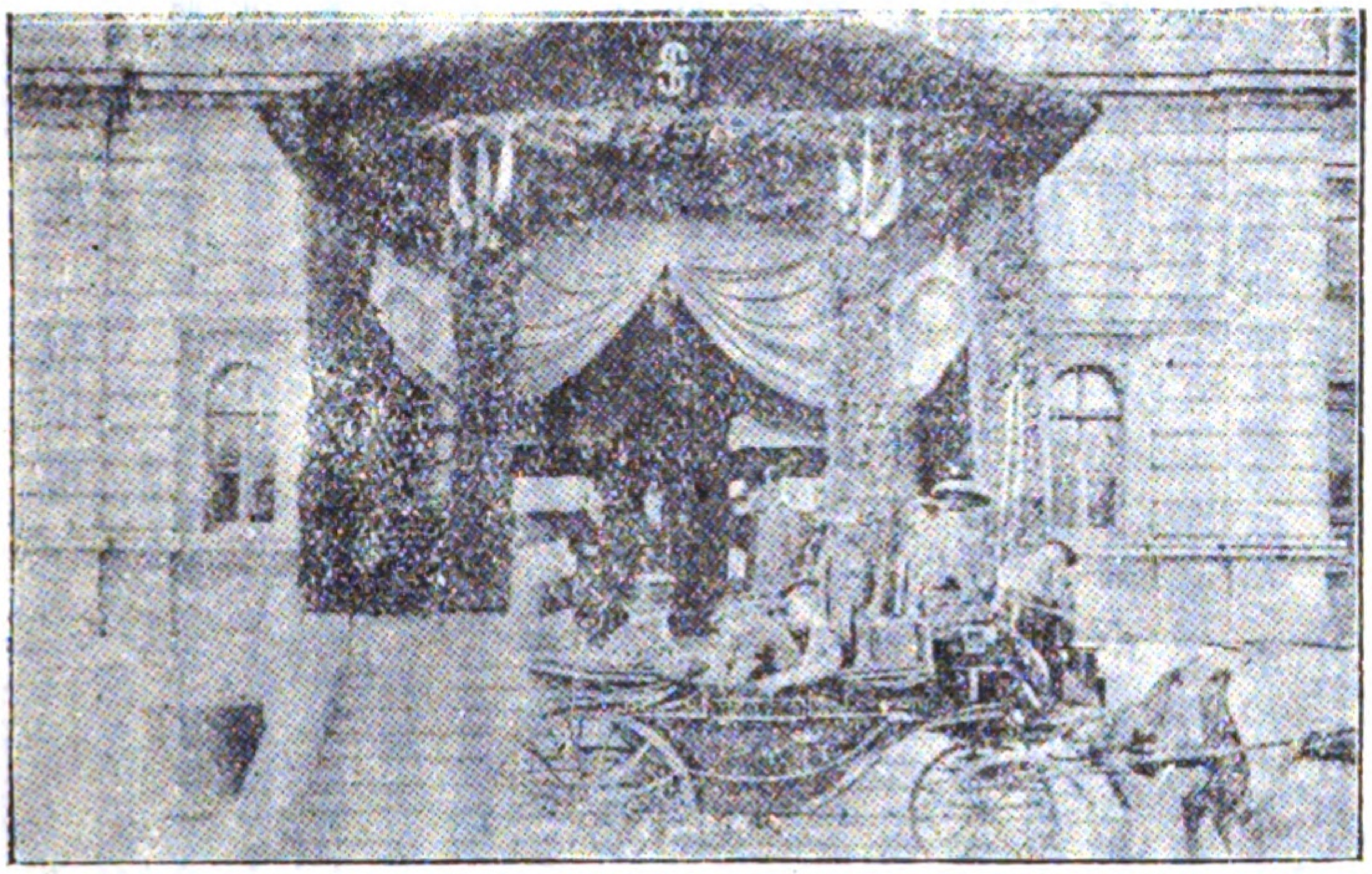
安宿兼安料理店の數(男子部)	八四
同上(婦人部)	二一
勞働者宿泊所(男子部)	一〇三
同上(婦人部)	九
人を宿泊せしめ得る設備(男子部)	一八、五三一
同上(婦人部)	一、九三四
去一年間の宿泊者の數	六、〇一八、四一八
去一年間食事の數	一〇、七九九、五九九

●それから次に「授產場」のことを紹介すれば

勞働ホームの數	一一二
應急授產場の數	一三
授產場の數	四
薪割り場の數	一六
收容し得べき設備の人數	四、九三六
去一年間臨時又は恒久に職を與へし數	五九、七四三

●次に「勞働紹介部」の事業に移らん

勞働紹介所の數	五八
去一年間仕事の申込者	八五、五〇九
去一年間仕事にあり附かせし數	五六、三七一



ブース大將東京市會議事堂の歡迎會場に着す(明治四十年四月十八日)

●「出獄人救濟事業」の概況を擧れば次の如し。

出獄人救濟所の數	一八
收容し得べき設備の人數	四八六
去一年間に收容せし人數	二、二七〇
堅氣に身の落着を定めし人數	二、〇七五

●「酒呑感化院」の事業は。

酒呑感化院の數	六
收容し得べき設備の人數	一四七

●「育兒院」事業に就ては。

兒童ホームの數	三四
育兒院の數	二五
收容し得べき設備の人數	二、八七〇

●次に「婦人救濟所」の統計は左の如し。

婦人救濟所の數	一一八
收容し得べき設備の人數	三、一一一
去一年間に引取し婦人の數	七、〇七八
堅氣に身の落着を定めし婦人	六、一三七

●又「妊婦病院」の事業は。

妊婦ホームの數	二一
收容し得べき設備の人數	三五八

●以上に漏れたる諸種の事業を擧ぐれば。

農業部の數	一七
貧民窟出張所の數	一四七
其他病院、村落銀行、實業學校等	八六

●以上を通算すれば。

救濟事業部の數	九〇四
救濟事業部附屬士官及候補生	二、五二〇

(註)明治四十三年救世軍年鑑に依る。

此外に大將が其時々の必要に應じ、惱める同胞を救護する爲に、經營せらるゝ事業は、其數が至つて多い。例へば此約十年來英國にて盛んに營まるゝ、彼の移民事業の如きは、非常に目醒しきものゝ一つである。英國の救世軍は去明治三十六年十月より四十二年末迄の約六年間に四萬餘人を加奈陀其他の英領殖民地に移住させたのであるが、其結果は九割五分以上、土地に安着して、幸福に暮して居るといふことである。此の如きは、これ迄移民事業の歷史に殆んど例のない好成績である。それ故オンタリオの内

閣總理大臣ホイトニー氏の言に、「加奈太の政府、及び諸州の當局者は、多分の金を投じて移住民を求め居れど、一向思はしき結果を見ること能はず、然るに救世軍の移民は他になき成功を致して居る。又救世軍の如く經濟向きの扱ひ振りは公私何れの事業にも曾て類のなきことであると」いふてあるは、此方面に於るブース大將の、事業の樣子を察するに足る言である。

大將は又其後英國にて、「自殺防止運動」を開始し、思ひ餘つて自から壽命を縮めんとする人々を救濟し始めた。

或記者の言に、「誰にても、若し英國史、又は世界歷史を著はすに當り、十九世紀の終より二十世紀の始へかけ、惱める同胞を救ふて之を向上せしむる運動の隨一として、救世軍のことを書かぬならば、其人は歷史家たる體面を汚す者である」といふてある。ブース大將は眞に歷史あつて以來、最も大なる社會改良家の一人であると謂はねばならぬ。(ときのこゑ)

◎宗教界

學校と宗教

基督教世界

過般新潟に於て組合教會關東部會の開かれし際、同地の諸學校及び市長等の發起により、組合教會の牧師等を聘し師範學校講堂に於て宗教倫理講演會なるもの催されしに、講師の一人たる平田義道氏が自己の信仰の經歷を述ぶるに當り、自分は最初楠公の七生報復の言に隨喜し居りしが、後ち基督教を聞きて其愛敵の教訓に接するに及び、更に高き道德の權威に打たれて斯教の優勝點を發見せり云々の言ありしが、之を以て楠公を誹謗せりとの誤解より起りたる問題は識者の間には一顧の價も拂はれ居らず既に一切不問に付して可なる筈なれども、不幸にして此問題に關聯して起れる別個の一問題あり、何ぞや他なし官公立學校と宗教との關係問題是れなり。

去六月廿七日發行の福音新報第八百八十七號は「羅馬武士と耶蘇」と題せる植村正久氏の說教筆記を載せたるが、植村氏は其冒頭に於て新潟に於ける該事件を論じ「自分は此の問題は左して大事件と思はぬのである。何れにせよ、官公立の學校に於て宗教を說くことは、信教自由にも牴觸する嫌ひある故、大いに研究すべき問題であると思ふ。基督教にもあれ、佛教若くは神道にもあれ、官公立學校は一切の宗教と關係しない方が公平の處置であるかも知れぬ」と云はれたり。吾人は不幸にして植村氏の意の在る所を知るに苦しむ。官公立學校に於て其教課の一部として或宗教を說き又は宗教の儀式を行ふが如きは明かに信教の自由に抵觸する事たるべし。然れども課業以外に於て、又は他の發起者の依賴に應じて教職員生徒が宗教家の講演を聽く爲めに、其校舍を使用し又は貸與するは果して何の不都合かある。信教の自由あればこそ教師も生徒も自由に宗教を聽くの機會を自ら造り得るなれ。相當の手續を經て廣義の教育の爲めに其校舍を使用するは極めて當然の處置と云ふべし。植村氏は曰く官公立學校は一切の宗教と關係せぬが公平の處置なりと。何ぞ其の意見の陳腐なるや。吾人は官公立學校が從來の狹隘なる方針を一變し、益々廣く門戶を開きて教師生徒をして宗教家の言論を聽かしむるの機會を造らんことを奬勵する者なり。是れ今日の修身教授、倫理訓育の缺陷を補ひ、道德の原動力を與へ、靈性の發達を圖り、以て教育の主眼たる人格建設の目的を完ふすべき最も有力なる方法の一たらずんばあらず。近來我倫理學者も教育案も稍や宗教を重んずべきを悟り、殊に三教會同の事あり教育宗教の提携を約せし以來各地の學校は大に門戶を開放して宗教家の言說を聽かんとする傾向あり。是れ吾人基督者宿年の議論の漸く實現し來らんとするの兆にして吾人の窃かに我邦德教問題の爲めに慶賀する所なり。

然るに何ぞ圖らん我基督教界の一方の代表者たる植村氏にして斯くも臆病なる意見を發表せられんとは。吾人は敢て臆病なる意見と云ふ。何となれば第一、官公立學校が其教員生徒に向つて信仰を強ゆるの危險ありと見ること是れ杞憂なり。第二今日の府縣知事又は文部省か佛教神道等は不問に置き獨り基督教のみを學校より排斥する如き不公平なる處置を取るならんかと恐るゝこと是れ亦無用の心配のみ。吾人は我當局者に左る不公平の態度あるべしと想像する能はず。第三、官公立學校の教育は今日のまゝなる修身倫理教育を以て事足れり宗教の如きを以て其缺陷を補ふの必要なしとするは自ら侮るの甚しき者ならずや。第四、今日學生青年の大多數は

敎會寺院に來らず、從つて人生の宗敎的覺醒の時期たる靑春期に於て、毫も宗敎を聽くの機會を有せずして過ぎ去る者比々皆然り。是れ我學校が餘りに宗敎に冷淡なるの致す所にして不幸之より甚しきはなし。然るに宗敎家にして國民の此一大不幸を等閑に附し去る如きは斷じて自らの使命を重んずる所以にあらず。最後に第五、學校に於て一切宗敎を語る能はずとせば獨り學生靑年をして宗敎其物を聽くの道なからしむるのみならず、國民の最も優秀なる宗敎的人格に接して其倫理道德上の講話を聽くの機會をも有せざらしむべし。蓋しかゝる人格は宗敎を離れて修養を語る能はざれば也。論者は云はん學生靑年を敎會に引き着くれば可ならずやと。固より然り、然れども更に進んで到る處に道を語るの特權を自ら剝奪するの必要いづこに在りや。

家庭

◉再婚する男女の心

ひぐらし

地味な女房に飽いた人、先立たれた夫に不滿足であつた未亡人など、時に派手やかな女を選んだり、愛だの戀だのといふ氣持ちで、若やいだ再婚をする人もありますけれど、男でも女でも、再婚となりますと、お互にモウ結婚といふものは、まだ經驗のない時に考へたやうな神秘的のものでも何でもないといふことが十分に分りきつて居りますゆゑめい〳〵自分に損のないやうにといふ、極めて露骨な打算的な立場に立つやうで御座います。

併し其の中でも男子の方は割合に單純なのが普通のやうであります。時として再婚三婚、四婚してもまだ治まらぬといふのもありますけれど、概して男子は妻といふ内助者なしには、まるで片輪のやうなもので、それに子供でもありませうものなら、忽ち不自由さに堪へられぬ處から、自分よりは寧ろ子供のために、氣立ての優しいのであればといふやうな風になるのでありませう。初婚の時に第一の條件として八釜しく選り好みした容貌などは、再婚に於ては餘り氣に留めぬかと思はれます。別けて子供でも多ければ尙更のこと、成るべく子供の出來ぬやうなのをと苦心するさうで御座います。それは後の妻に子供が出來ると、其處は人情で、先妻の子との間に起る別へだてや、延いて生ずるいろ〳〵の面倒を氣づかうからで、思へば無理ならぬことではありますが、又一方から見るといふと隨分蟲のよい話で御座います。(婦人の友)

◉家庭の風儀

前大阪市長　植村俊平

私は日本の親達くらゐ自己本位——親本位の親はあるまいと思ふ。多くは子供に綺羅をかざらせ。鮮やかに化粧させ、美々しく裝ひたてさせて、謂ゆる蝶よ花よの鍾愛かぎりなき有樣を衆人に見せて之を誇りとしてゐるが、それが果して眞に子供を可愛がるものか、即ち子供がそれを何よりの樂みとして喜んでゐるかどうかと思ふに、恐らく然うではあるまいと思ふ。一例をあげて見ると子供をよく芝居につれて行くが、其時には紅白粉を限なく塗りたて、着物は縮緬の二枚襲れとか、裾模樣の振袖とかをきせ、帶はまた非常に厚ぼつたい大きなのを立矢の字とかいつて脊丈ほどに脊負はせる。唯着て居てさへ重苦しく熱苦しからうにそれがムツと咽せかへるほど人いきれのする土間や棧敷のそれも身動きも出來ぬほど詰めこんでゐる狹い桝の中へ、お雛樣然ときちんと坐つて居なくてはならぬのだからたまらない。汗は出る、顏はほてる、耐え性のない子供ほど苦痛は餘計ひどからうに、額の汗一つ思ふやう拭ふことができない。拭へば折角のお化粧が滅茶々々になる。子供の身になつて見たら、苦痛は何のくらゐか知れない。可愛がるのか虐待するのか全く判別に苦まざるを得ぬ。

それからまた、上流社會の常識の發達した人でありながら子供のゐる前で人の噂、それも好い噂なら兎も角も、盛んに惡口をいふ人がある。子供のことだから解りもしまい。又わかつた所が別段氣にとめても居まいと、子供の傍にゐるのを全く眼中に置かぬ人があるが。感覺の銳敏な、好奇心のつよい、印象のつよい子供の前で、他人の惡口を言ふと云ふのは飛んでもない間違である。頑是ないほど印象が强いのだから、子供のゐる前ではかういふことは別して愼むべきである。また更に恐ろし

きは、子供の前で親達相互間惡口を平氣で云ひ合ふことである。かくては親の威信も尊嚴もあつたものではない。特に甚しいのになると洗ひ渫ひ打ち撒けて自分達の短所、缺點、惡癖何も彼も子供の耳に入れて了ふ人がある。或は子供を審判官にして、れえ坊、お前のお母さんぐらゐ馬鹿はありやしない。困つた人だ、れえ坊」と無理に母親を惡いと納得させる父親もあれば、「れえ孃、お父さんこそ呆れた人だ、然うぢやないかと、これ亦無理强ひに自分の味方とする母親もある。中には又まだ舌さへまはらぬ乳呑兒を捕へて、「お父ちやん馬鹿」とか、「お母ちやん馬鹿」とか惡口させて喜んでゐる親もある。何とも呆れきつた次第ではないか。今少し親は親、子供は子供と區別して、充分の注意を以つて子供を敎養して貰ひたいものである。親本位でなく、子供本位で養育して貰ひたいものである。(女學世界)

(文藝と婦人)

◉近代文藝は婦人を如何に觀るか

早稻田大學敎授　島村抱月

近代文藝、殊に小說とか劇とか云ふものは、殆んど婦人の研究が中心となり、婦人問題を提げて居ると云つてよい位である。さうして其の主なるものは、大抵男子の手に成つて居るものであるから、云はばこれ等の文藝は、男子が自分の運命に、最も重大なる關係を持つて居る女性に對して、古來未だ解釋せられない疑ひや研究を發表したものと云つてよいのである。

廣く社會の全體から見ても、此の種の文藝が世間の所謂婦人問題を刺戟したことは明白である。婦人問題と云へば、偏狹固陋な一部の思想界では、其れ自ら何か不穩な事柄でもあるかのやうに恐れて居るのであるが、そんな馬鹿なことはある譯はない。此意味に於て、婦人問題は何處迄も研究せられなければならぬ。さうして其婦人問題の刺激となれる最も有力なるものは、とりも直さず近代の文藝である。日本に於ても現に基督敎方面の廢娼運動と關聯せる最近の婦人問題が、ノラ劇やマグダ劇で非常な刺激を受けて居るのは明白な事實である。內ケ崎作三郞君や、安部磯雄君等の人々が、此方面の活動ぶりを見ても、此事實は分る。

或る場合には、隨分皮肉に女を始末におへぬ、いたづら者、所謂女子と小人は養ひ難し的のものと觀たやうな文藝も、それが近代の文藝の中に表はれて來ると、如何にも尤もらしく、且つ女の急所を抉つたものゝ如く出來て居る。これが果して當つて居るか何うかは婦人自ら顧みて辯解すべき問題である。例へば先達死んだストリンドベルヒの「友達」と題する劇であるとか、また同人の「父」と題する劇などは、其の好例である。「友達」は楠本正雄君が飜譯された。あれを讀んでも中々面白い。問題が已に婦人自らの前に提出されて居る譯であるが斯やうなものに對しても、日本の知識ある階級の婦人は、何と答へるか、聞きたいものである。

また寧ろ婦人の味方として、提出せられたものは、例のイプセンの幾つかの劇である。其の最も著しいのは、「人形の家」である。あの中には、所謂婦人の獨立とか解放とか云ふことに關する問題もあれば、また昔より男女の間に橫はれる婦人の疑問、卽ち一歩立ち入つて見れば、女は男には謎であると云ふ彼の問題が出て居る。

其の外、婦人の理性問題、婦人の直覺問題等に關しても、男は反對に異なれる意見を樣々に持つて居る。云はば婦人の本性と云ふ一問題が、已に男性にとつては、未解決の大事件である。それが近代の文藝に樣々の形に表はれて居る。これを婦人が何と見るか、善い解釋につけ、惡い解釋につけ、必ず其處には、婦人にとつても、非常な利益と興味とがあるものと信ずるのである。(婦人の友)

(社會)

十二階下の秘密

松の里人

淺草十二階下の淫賣婦の八十パーセントが病毒に犯されて居るといふ事が、檢黴の結果明になり世の放蕩兒をして、聊かながらも反省せしむるに至つたのは社會の爲大に賀すべき事である、然しながら喉元過ぐれば暑さ忘るゝの世のならひ、自分は之を好機として、單に幾十パーセントといふ數字

以外に、如何に彼等の社會に病毒傳播の劇烈なるかを明にし、一方世人に警告すると共に、又他方に於て彼等の悲慘なる境遇を明にして、唯罪を彼等に歸する世人の誤解を正さんと欲するのである。

芝の神明、日本橋の濱町、淺草の十二階下を初めとし、魔窟は東都の各所に散在し、殊に小魔窟の如き、ふへこそすれ決して減少の形勢はない、然しながら單に魔窟といへば、世人は十二階下を聯想し、十二階下といへば兎角魔窟の代名詞になつて居る、これは無理ならぬ事で、十二階下の、淫賣婦の總數は、如何に少なく見積つても二千五六百で、最下等に屬する者と雖も決して月收八十圓を下る事はない。時に二百圓以上に及ぶものは稀でないのである、假りに八十圓平均としても一ヶ月廿萬圓の大金が十二階下に於て消え失せるのである、而して此所に遊ぶ者の多數は職工最も多く、店者、學生といふ順序である、即ち一夕の豪遊千金を消費して吝まざる上流の遊蕩兒にあらずして、額に汗して得たる些少の賃金の積りて巨額に達したるもの、若し此れが貯金されたらば、不景氣の場合如何に生活難を融和する事が出來るか、經濟上よりも識者の一考を煩したいのである

十二階近傍には、單に魔窟だけを相手に營業して居る醫院が、平山、荒木、小川を始め十五軒もある、そして多い所には二十人、少ない所でも十人位の横根を切つてもらいに來て居る淫賣婦が居る、勿論此中には、切つた後の療治のものも含まれて居るけれども、之が毎日といふに至つてはいかな放蕩兒も戰慄を禁じ能はざるに至るであらう。

七八年前室田署長が手當り次第に五十人の淫賣婦を集めて檢黴を行つた時、無毒のもの僅か三人に過ぎなかつたといふので見ても、以前より病毒の甚しかつた事が分るので、近時の强制檢黴は實に最少し早く行なはるべきものであつたと思ふ、一度着手した以上は充分其目的の貫徹に努力せん事を當局者に望むのである。

淫賣婦は場所に依つて、上中下の三階級に分れ、又營業に依つて上中下の三階級に分れるので、都合九階級に別れて居るわけである、表面の營業は、銘酒屋、碁會所、及新聞縦覽所の三種で、銘酒屋が上とされ、碁會所が中とされ、新聞縦覽所が下とされて居る、抱主と女との利益の分配は、抱主六女四の割合であるが、午後十一時後は半分わけである、淫賣の方法は二種あつて、一は自宅に分らないやうに作られた、ちよんの間といふので用を終へるのと、客を連れて外泊するのである、晝間は女を連れて外へ出れば、普通より三倍或は四倍の支拂を爲さればならぬけれども、十一時後は女は自由の身であるから普通の支拂でよく、其金を抱主と女とで折半するのである、上の部は大抵外泊で、六七圓或は十數圓の遊興費を要するけれ共中以下は、七八十錢より三十五錢位のものである

（新公論）

京都遊廓の廢止

京都府知事は二十三日府令を以て左の如く遊廓區域變更を發布せり

（三二）

▲五番町遊廓區域

一番町（四番町に面せる東側）四番町（中立賣通に沿ひたる表側を除く）五番町、三軒町（中立賣通及び七本松通に沿ひたる表側並に中立賣通以北七本松通以西を除く）、下竹町、利生町

▲祇園新地甲部遊廓區域

祇園町南側、同北側（南北兩側共四條通に沿ひたる表側を除く）中の町（同上）、橋本町、清井町（乙部區域に屬する部分を除く）川端町、清井町、宮川筋一丁目及び二吉町、末吉町、富永町、辨財天町常盤町二十一軒町の内四條通及び大和大路通に沿ふ表側を除きたる部分）

▲七條新地遊廓區域

平居町（新寺町通に沿ひたる表側及同通以西を除く）南京極町聖眞子町、八つ柳町、岩瀧町、早尾町波止土濃町、新屋町、高宮町、高松町（高宮町に面せる表側）平岡町高宮町に面せる表側及び菊屋町に接續する部分は其部分に面せるを表側とす）

▲伏見墨染遊廓區域は全部刪除す

> 益富常務理事過日九州地方巡回の砌り大分市に於て日基、メソヂスト聖公會三派聯合の主催にて廓清會の趣旨に就き演說をなせり、多分來年春頃同市にも廓清會の支部開かるべし、尙益富氏は大分縣警察部を訪ひ、多大の後援を得たりといふ。次號に委細を報ぜらるゝ筈。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

貸座敷に近江聖人の後裔を訪ふ

廓清會評議員
成女高等女學校長　宮田脩

一

廢娼運動に加擔する予が、白晝青樓にのぼつた一事は、如何にもおかしい取合せである。然し此行に於ては、予と青樓とのおかしな取合せより、更に偉大な——强て偉大と云ふ——取合せの惡戯があるのである。

すぐる九日の夜、偶蓮沼君が來て四方山の話をして呉られた末、「中江藤樹先生の末孫が横濱に居るさうですが、夫が女郎屋の亭主ださうです」と云ふ話をした。おかしな話だと思つたが、餘り其對照がおもしろ過ぎるので、更に耳を傾けると其處に先生の遺墨は勿論遺跡を探るのに大分有力な遺物もあるとのこと、且は大鹽中齋先生の末路についても世説と異う種があるとの話に、予の好奇心はいよいよ動いて、近日其後裔と云ふ人を訪ねて見やうと約した。すると其翌朝向上舍に在る團員黑田君が來て、私が案内をするから是非同道しやうと誘つて呉れらした。黑田君は先般始めて此人を世に紹介した横濱めざまし新聞の社主黑田平八君の令甥であると云ふのだから、東道の主としては最も適當の人と思つて、翌十一日多忙な校務を無理に繰合せ午後の汽車を僦つて眞直に横濱に向つた。

二

黑田君は予の爲めに、既に前日横濱に來て居て、待つて居て呉れると云ふのだから、ステーションにつくと直ぐ駿河橋行の電車によつて、めざまし新聞の所在地である南吉田町に向つた。横濱は予が呱々の聲を擧げた土地であるのだが、ただ生れた處と云ふだけで早く土地を去り、其後は用もないので餘り訪ねもしないから、地理は一向わからない。けれど目指す處は横濱橋と云ふ處で下りれば直ぐと聞いたので、車掌に頼んでおいて先づ間違ひなく下りた。何とか云ふ川に架けられた横濱橋を渡つて往くと、斜に向つてナマコ板の塀で圍れた四五町四方の一廓が見へる。近眼の予にはよくわからないが、西洋造り日本作りどりどりの新しい棟が幷んで居る。けれど建築は極めておそまつのものらしい。春ではあるが午後の大陽が砂ぼこりを通して、どんよりトタン板を射て居る殺風景の様子を見ると、風流も趣味もない現實の悲哀がヒシヒシと胸に迫つて來た。

そんなことを考へながら、印絆天の小僧に敎へられてめざまし新聞社の門口に出た。「ドア!」を開けたまゝ受付の前に坐つて居た短褐の黑田君は、「ヤア先生、郵便が着きませんでしたか」と云ひながら迎へて呉れた。如何云ふ意味かわからなかつたが、「イヤ」と答へると、「實は先方の主人が二三日前から病氣になつて今靜養中ですから困ると云ふので、昨夜手紙をあげたのですが」と云ふ。オヤオ

ヽヤと思つたが忙しい暇をさいて折角來たのだから、出來ることなら遺物だけでも見たいと思つて黑田君を促し、電話で交渉して貰つて强て承諾を得た。

三

「デハお供致しませう」と黑田君に誘はれて、同社を出たのは午後三時頃でもあつたらうか。街往く飴屋の笛もやゝ倦るさうに響き、艀の汽笛が遠く風にゆられて聽へた。先に立つた黑田君に續いて町を二つ三つ曲り、先程の横濱橋の方へ歸へつて、もう少しで川岸へ着うとする頃、「正門から入るといゝのですが、さうすると大分まわらなければなりませんから、御迷惑でせうが拔路を往きませう」と案內者の同君は云ふ。いくら藤樹先生の遺物を見るからといつて、必しも正門には及ぶまい、小徑によつても早い勝の今日此頃と思つた自分は、「通れることなら何處でも」と直ぐ三尺計の路次に入つた。前には二三人の學校生徒が步いて居た。初めの十步ほどは普通の路次と思つて居たが、十五步にして蓋の隙からあふれて居る掃溜、二十步にして掃除口から汁の流れて居る便所、近頃にない臭惡の道を通らされるものかなと思ひながら往くと、更に驚くべし其不潔な便所と僅に尺餘の筋向ふに、トタン張りの塀を地上二尺五寸程破つた口がある、其處をくゞるのであつた。こう云ふ場所には妙な仕懸けのあるものである。

此間道を潜つて出ると、其處が即ち來る時に見たナマコ板の塀を廻らして有る一廓、即ち横濱黃金町の遊廓であつた。時は白晝であつた故か、世間の街は往來の人が忙しいのに、此處のみは闃として人一人步いて居ない。先に立つのは短い袴に處禿のした紋附の木綿羽織を着た修養團員の黑田君、後に續くのは高帽に太い杖を持つた敎師の予、而して處は本能を滿足させる爲めに設けられた場所、一寸妙な感が起つた。而も夫が聖人の遺物を探りに往く巡禮と云ふのだから一層奇妙じやないか。靜な町を步いて居る中に、女郎屋と云ふものはこんなものかと云ふ感も起り、往昔基督敎の信徒が異敎徒のエルサレムに、主の靈地を訪れた時の感等も想像して見た。

四

聯想と云ふものは妙なもので、夫から夫れへと考へて往く內、三層樓のとある店の前に出た。左右には所謂張店と云ふ格子戸の窓を扣へ、其窓の前には太い丸太の手すりを渡した間口、其中央に約二間餘の玄關を開いた鴨居には、生々しい金色で金月樓と題した一面の木額が掲げて有つた。如何にも女郎屋風の俗惡な構造である。黑田君は其前に立つて、「此樓が中江さんの家です」と云ふ。「どこから入るのですか」と聞くと「こゝからです」と答へる。是には聊か驚かざるを得ない。今こそ江燈綠酒に耽溺する遊蕩の兒は見へなくても、やがて五時間を經ぬ內には酒の香を吐いてざれ言をほざく性慾に餓へた奴等が輻輳する處かと思ふと、「復活」の賣上を以てしたトルストイの寄附金を退けたヅホーバー敎徒程のピューリタンではないが、とにかく一種嫌な感を禁じ得なかつた。けれど半分の好奇心で抑へて、生後始めて女郎屋の玄關の式臺まで進んだ。

左右の張店には人一人居ない。けれど

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

厚い友禪縮緬の坐蒲團は、行儀よく幾十枚となく敷かれ、蒔繪の煙草盆と長い羅宇の煙管とは、生きながらにして囚はれの身となつて居る女郎其ものゝ姿を想像させる。玄關の式臺をふいて居る腹掛の男は所謂牛と云ふものか。時ならぬお客を異に思つてか、無愛想な面つきをして予等を注視して居る、予が名刺を出して慇懃に來意を告げても、件の男は迂論さうに見て居て取次いで呉れず、あまつさへ無禮にもつつ立つた儘で居る。是も女郎屋の傭人としては無理もないと思つたが、藤樹先生の姓を襲ふ家の雇人としては、もう少し加減もありさうになぞと考へて居る内質素な綿服を着て而も如才なささうなやゝ年配の一婦人が現れた。黒田君とは相識の間と見へて予の名刺を受取りながら「サアこちらへ」と案内をして呉れた。終に予は青樓中の人となつた。序に書いておくが、此時玄關からやゝ入つた廊下に、一人の男が長一尺ばかりの長方形の箱に、煮豆、燒豆腐、煮魚など飯の菜らしいものを前に幷べて坐つて居た。思ふに女郎の菜にするのだらうが、妙な組織のものだ。

五

導かれた一室と云ふのは、此家の納戸兼用の坐敷らしい。やゝ暗い細長い部屋の一方には幾何かの簞笥が列を正しく列べて在つて中央には何であつたか忘れたが、手頃の食卓が据へられ、其上に三冊の古寫本と二卷の古文書及び軸物の箱が二つ置いてあつた。勸められて卓の前の蒲團に直り、直ぐに古文書をとつて見た。一つは三四代前頃對馬の宗家に仕へた中江家から、此樓の祖先である近江の中江家に送つた手紙で、一は先代の頃寫したらしい略系圖である。前の手紙で見ると對馬の中江家と近江の中江家とは暫く音信を絕して居たものらしく、其手紙を送つた時始めて藤樹先生父子の遺像其他を割與したらしい事が書いてあつた。また系圖で見ると藤樹先生の家は、先生の祖父中江德左衞門吉長の時に三人の男子があつて、嫡子吉次の後が即ち先生の家で、二男三郎右衞門と二男文六とは分家し、つまり三家になつて居た。而して此處の主人公と云ふのは、三郎右衞門から八代の孫であるのだから、直接に先生の血を享けて居るものではないが、兎に角一門の名の下に先生の德を誇り得る關係はあるのである。此名譽ある一族の流にして、而も聖人の後裔たる主人公三吉君が、餘りと云へば餘りに突飛な職業に從事するやうになつた徑路は抑も如何なる因緣かと云ふに、主人公の語る處によると、樓主の先代中江三郎右衞門氏が、明治の初年時の縣官が、同氏に無斷で聖人の遺蹟德本堂を修理したのを憤つて、憤然訴訟を提起して東西に奔走した結果遂に產を傾けて三男一女の敎育も出來ない始末になり、第三男であつた樓主は明治十三年齡僅に十三の身で鄕里を飛び出し大阪に往つて三年計り某家に丁稚奉公をし、十六の時同姓で且つ先考とは値遇のあつて故兆民中江篤介氏を便つて上京したが、東海道の金谷に來た時既に旅費を使ひ盡し、漸く村役場で貰つた少計の金を路銀に辛く横濱まで着いたのであつた。けれど知人もない土地ではなす便もなくて終に俠客の群に入り、續いて新開の土地に此職業を選んだのださうだ。

六

黒田君と系圖を見たり、「延寶九庚申七月一日より二日三日までに書移畢　江州高島南郡藤樹の門下書之岡田安十四歳叔好」と奧書のある藤樹全書中の古寫本などを涉つて居る内、「病中ながら折角のお訪ね故主人がお目にかゝりたいと申しますから、どうぞこちらへ」と案内されたので、此部屋から居間を距てた本坐敷へ移つた。部屋は十疊ばかりの廣さもあらうか正面の床には藤樹先生の一軸「不貪名利、不惜身命、不諂權貴、不恐勁敵、毅然丈夫、平生所志、忠勇二字、中江愿書」と極めて謹嚴な文句を謹嚴な筆で染められた半折ものが懸けて在る。先生が謹嚴篤厚の士であられたことは、新に説明するまでもないが此軸を拜見すれば愈ゝ襟を正して其遺風を慕ふ念が強まると同時に、懸られたる場所が是に伴はぬことを益ゝ遺憾に覺へた。やがて當家の主人公は現れた。デップリと肥つて便々たる腹を押出して坐つた風丰と云ひ、病中とは見へぬ程艶々しくてフックリした顏色には何處か剛毅の氣象を湛へ、五ッ紋の羽織を着流して構へた面魂には所謂王學の寂然不動を體現して、青樓の主人公としておくには餘りに惜しい程の好紳士であつた。曾つて藤樹先生生死首尾の吟を作つて

湛然虚明一池水　嚴凛寒氣堅氷至
春來風光和煦時　湛然虚明一池水

と唱へられたが、主人の默坐して予等を凝視したる時の眼光には確に此氣字の溢れるものが有つた。由來職業に貴賤なしとは云へ、青樓の主人公として君を見る時、誰か此好個の偉丈夫に對し疾く其職業を拋つの利益なるを思はぬものがあらうぞ。況んや藤樹先生と門を一にし血を紹くるに於て。予が同樓を辭して歸るさ、晩鴉時に歸る鶴見の里を通過した頃、車窓に映る西山の殘暉を浴びつゝ、轉た造物主の予盾した此配置を疑はずに居られなかつた。

七

日本人は家系を重ずる國民である。何故に祖先の血を重ずるかと云へば、自ら遺傳の影響が其子孫に及ぼす所以を意識したからであらう。けれど祖先の血が何處まで遺傳するものであらうか。從つて祖先の遺した系統中に在る同族の名譽が何處まで子孫の名譽に値ひするものであらうか。予は聖人藤樹先生の後裔が青樓の主人公たる事實に徵して爰に多大の疑念を挿まざるを得ないのである、曾つて板垣伯が一代華族の制を唱導された時、予は窃に伯の卓見に服した一人であつたが、こう云ふ事實に逢着すると愈ゝ名譽の世襲が無意義であることを認めずには居られない。予は必ずしも進化論の主張を否むほど無學でないつもりだ。其遺傳説の如きは最も承認すべき議論と思つて居る。けれど精神上の事實に於ては父子必しも相通のものでないことも爭へぬ事實と思ふ。況や世を距てゝ數代其血が混入した後は、どうなるものだかわかるものではない。して見ると家系の如きは其人物を評價するに、何等の價値を有するものではなからう。畢竟エライ奴は其一人がエライからエライので、いくら名門の出でも其者に祖先と拮抗する能力がなければ、たゞの馬鹿に過ぎない。要は一人一人の問題で、名譽を世襲と考へる

制度は何等の理由もない惡制度と云ふべきである。さうすれば此反對に今日の中江三吉君が藤樹先生の後裔だからと云つて、何も怪むに足りる問題ではない。藤樹先生は藤樹先生で、三吉君は三吉君であると云ふまでだ。問題は其の人々の抱負が大か小か、其人々の所信が厚か薄か、其人々の器量が重か輕かによつて定まる話である。從て三吉君が藤樹先生の血統に在るからエライと云ふべきでもなく、又餘りにかけ離れた仕事をして居るから惡いと云ふべきでもない。然し家系を重んずる因襲に囚はれた多くの人は此事實を見て一種異樣の感に打たれるのを禁じ得まい。惜むべきは三吉君のとつた職業撰擇法の錯誤である。

遮莫何處となく底に力のある音調で話して呉れた三吉君との會話は、少くとも予にとつて聽き心地がよかつたのである。實は同君が病中でなければなほ聽きたいこともあり、論じて見たいこともあつたが、症狀は心臟病と聞いて惜しい別をした。當に辭して門口を出づる時、二人の酔漢は蹣跚として聞くに堪へざるざれ言を吹きながら、予等と入代つて闖入して來た。往來も亦先刻の寂寞にかへて、やゝ人の足音が聞へるやうであつた。金月樓の家運は之を祝すべきものか果た咀ふべきものか。嗚呼。

▲會　告▼

來る九月二十五日午後六時より神田青年會館に於て廓清會第三回研究會を催す有志の諸君は來會自由たるべし但し今回の主論者は內ケ崎文學士にして研究題目は萬國『廢娼同盟運動』也。

奇怪なる廢業申請の取扱

左は京都の〇〇〇〇君から、京都小隊長高木牛五郎氏が、自由廢業事件について拘引せられし事情に付、救世軍の山室大佐に寄せられたる書信である。

小生は京都美以教會に屬せる一基督教信徒に御座候が、小生の隣家に木下卯之助なる木挽仲士を業とせるものあり、其妹に同性つると申し本年二十七歳にして家計困難の結果、昨年十月大津市柴屋町〇〇樓に娼妓として二百圓の前借金を以て勤むることゝなり、冷酷なる樓主の下に涙を飲み、苦痛を忍びつゝ本年五月頃迄務め來りしも、其苦痛に加ふるに激烈なる梅毒症に罹り、困苦に堪へず、一日密に其樓を飛出し逃げ歸つて居れるを見其事情を聞きて同情の念に堪えず、曩に救世軍兵士によりて受けし、佐伯理一郎氏の經營にかゝる佐伯病院施療劵を與へしに、大に喜び同病院に赴き診斷を受け候處、やはり激烈なる梅毒症との事にて、同院長の紹介により大學病院に通ひ治療を受け居りしに、幸ひにも近時快癒の域に向ひ喜び居る中に、再び樓主の許に歸宅し苦しき勤めをせざるべからざるを憂ひ、假令死すとも再び大津には歸らまじ

其樣の事あらば自ら死せむなど常に口走り居り、小生も常に之を慰め居候に、去る十八日ふと小生の宅に來り、歸津しなくてはならぬ事が氣にかゝり堪え難し、いつそ死して此苦痛を脱せばやなど、非常に煩悶せる狀態を見、實に憫然に堪えざる想ひいたし、出來得るならば基督教により神を知らしめ基督の救を受け幸福なる生涯に入らしめたき考にて、熱心に救世軍小隊に出席を勸めしに、本人も大に喜び其夜早速出席し、初めて出席せしに不拘適切に感せしものか、高崎小隊長の說教を熱心に傾聽し遂に悔改の座に進み、信仰の決心をなす迄に至りしが、それと共に斷然廢業屆を其筋に差出すの決心をなし、早速認めて其翌日高城氏の許に持參せしに、高城氏は即日大津に赴き同地所轄警察大津警察署に持ち行かれしに、署長面會し、普通ならば本人出頭屆出づべき規定なるも、外ならぬ貴下の關係せられ候救世軍よりとの事につき、本人の病氣診斷書を持參せらるれば許可せむとの事により歸京、佐伯理一郎氏より診斷書を貰受、再び赴かれしに、以前の言葉に反し、已に樓主側の運動にてもありしものか、二三日待てよとか、或は示談せよとかにて有耶無耶の中に葬り去られむ樣子に見へしかば、高城氏は大に憤慨せられ、これ位の事が署長に於て御決定出來ぬとは奇怪千萬なりと大に詰責せられしに、署長は何等答ふる所を不知困難の樣子を見たる缺席警部は、署長に對し禮を失せるものなりとし、大津警察の威嚴にも關する言葉なり、其儘にては許さじとて烈火の如く怒り、傍にありし遊廓の者共十人ばかりも大に激昂せし樣子を見せ、何か申せし言葉に對し、高城氏はいよ〱憤激し、君達は人の皮をかぶりたる獸なりと、責められしか、其言葉を捕へて彼等は我等も同じ人間なり、內務省の許可を受け納稅の責任を完うして、稼業せるものなり、何ぞ無禮の言を吐くやとて大に言ひ爭ひ、其結果名譽毀損せしものなりとて其罪名の下に高城氏はその儘留置所に拘留せられしと、たま〱本人木下つるの兄卯之助現場にあり、幷に其他に一人目擊せし者の述ぶる處に御座候。

高城氏は今尚歸京せられず、其事を聞きて小生も大に驚愕致し、一婦人を救はん爲とは申せ、事小生に原因せる事を思へば、高城氏のために同情に堪えず亦恐懼致し居候次第に御座候、高城夫人は兵士一人を連れ、牧野虎次氏（京都敎會牧師）を訪ひ、同氏の厚意による村上大津組合牧師並に、同志社出身の某法學士に宛てたる添書を持つて、先刻大津に赴かれ、同夫人よりも何とか通報可有之と存候へども、前記の如き關係ある小生より御通知申候事當然の事と存じ、茲に不文を顧みず事情を具陳し、御參考に供し申候、先は右得貴意度如斯御座候敬具。

尙一方本人鶴子は、先方よりの嚴重なる搜索の手に洩れず、其かくれ家より樓主の許に無理に拉し去られ、威嚇せられてか、廢業は自分の意志にあらずなど申居候由に之有、小生も憤慨に不堪、何とかして素志を貫徹し、彼の一婦人の眞面目なる、且つ幸福なる生涯を送らむ時の近からむ事を祈り且つ願居候。

廓清餘錄

阿片禁止に倣へ

犧牲なくして善事はなされない。個人に於て然り國家に於て然りである。若し一つでも算盤の桁をはづすまじと、其のみを考へて居ては、到底奴隷解放(公娼廢止)は實行せられまい。此點に於て我國民と政府とは、少しく最近英國が人道の爲め其の支那に於てさゝげたる犧牲を參考とせねばならぬ。即ち、英國は先きに支那の阿片禁止に深甚な同情を表し、印度に於ては約二百十七萬人の農民が之が耕作に從ひ、印度政府は之が爲め約百萬磅の消費稅、三百五十萬磅の輸出稅の收入あるに係らず、千九百十一年より年々其支那に對する輸出額を制限して、千九百十七年迄に其輸入を全廢せんことを約し、尚夫れ以前でも支那が其國內阿片の栽培を全滅せば、何時にても輸入を禁ずべく、更に又一省にても阿片を栽培せず、且他省より阿片を輸入せざれば、其省に限り阿片輸入を禁ずべきを約し、且つ支那政府が從來の輸入稅百十兩を三百五十兩に引上ぐる事にも贊成した、これ實に英國にとりては、多大の犧牲を拂ひたるものではあるまいか。四百五十萬磅と云へば實に四千五百萬圓である。而して二百十七萬人の農民は、之が爲めに一大打擊を受けねばならぬ。然し流石に大英國なるかな。人道の名によりて請求されると、他國の爲にさへ喜んで此大なる自國の犧牲をも拂ふのである。娼妓解放に就ても多少の犧牲は辭するを得まい。然しそれは毫も他國の爲めではなく、自國の爲めではないか、而かも其は僅か三千餘戶の娼樓の損失に過ぎぬではないか。人道の名によりて命ぜらるゝ時に、何ぞ躊躇するを要せんや。今日の事は只當局者の決斷の二字にある。

藝娼妓の盛衰

最近警視廳の統計によれば東京市で四十三年末には一千五百七十三あつた藝妓家が、四十四年末には、一千六百八十二に殖えて、藝妓は三千八百三十七人から、一躍四千百八十九人に增加した。之に反して娼妓は非常に減じて居る。引手茶屋は百四から九十二に、貸座敷は四百三から三百八十三に、娼妓は五千三十六から四千三百八に劇減した。而して娼妓の減少したのは、吉原の衰退した爲めであるといふ。吉原の衰微は喜ぶべき事であるが、藝妓屋及藝妓の增加は如何したものであらうか。

支部發會式の美談

嘗て群馬縣支部の發會式を擧げたる折、前橋より十二里も隔てたる多野郡神川村の靑年組は、宮前右太郎氏に率ゐられて、態々發會式參列の爲め出橋した。神川村から前橋に出るには鐵道の便を借り得る所は僅かに二里餘りであるので、他は悉く膝栗毛に鞭つて歩くより外はないのである。それ故右の靑年組は前夜の十一時からテク／＼と歩いて、翌朝漸く前橋に着いたといふ。余は實にその熱心に敬服した。其時の靑年は、即ち高橋松太郞、堀口義一、同勇次、宮前兵武、梅島彌作、梅島文作、新井安治、新井竹市、宮前淸市、齋藤健吾、同武市の十一名であつた。

奴制破壞の萠芽か

大阪松島遊廓花岡町代〻座敷北淸玉樓の娼妓八名は、ズラリと連名で以て所轄西警察署に一通の願書を差出した。曰く「娼妓の待遇を人間並にせよ平等にせよ、無理をするな、虐待するなと云ふ御注意から、去年御發布の府令によつて設けられた我れ等の收入と支出を事細かに記載する明細簿には、何人も嘘僞の記入をするのはならぬ筈なるに、我等の樓主は收入の附落しをなすこと甚し、其不都合をせまれば、生意氣を言ふなとて手痛く當られる。口惜しければどうぞ御調べを願ひます」との文句である警察署では、直ちに樓主を呼び出し其不都合を戒飾したといふが、之は事小に似たれども、大なる人權思想の進歩である思ふに娼妓が樓主を訴へ、而して警察署が娼妓の言分を通してやつたといふ一事は或は大阪の如き進歩した警察官ならでは出來兼る話かも知れぬ。我々は今後大に斯樣な事を奬勵いたしたい。之れ蓋し娼妓の人權伸張の第一歩であり、奴隸制度破壞の萠芽である。

藝妓の一念發起

大連の湖月といふ料亭に居た米子と呼ぶ藝妓は、此程發心して僧尼となり、京都の前通下立賣上るの善念庵といふ庵室に居る。蓋し不圖した事から名古屋に居る伊藤某は實の兩親ではなく、生の父母は何ものとも知る由がないといふ事を知つて、痛く浮世を果敢なみ、だん〳〵佛教に歸依して來て、佛法藝者の異名を取つた程であつた。然るに茲に此の米子に生命までもと打込んだのは大連の某と云ふもので、立派に妻子まである身を忘れ、今日迄八年が間降つても照つても心を渝へぬ恐ろしい執念、米子の方でも水心あれば魚心といふ鹽梅で今日迄續けて來たが、此頃になつて男は是非女房になつてくれそれが出來ねば情死してくれと度々迫るけれども、身は浮川竹の勤めはしやうとも、多少宗教にも身を寄せて居るだけあつて、其男の望みに應じて從來の妻女を離別させて、今更ら女房に直つては女としての義理が立たぬ。と言て男はなか〳〵思ひきるべき樣子はなし。此上は藝妓をやめると同時に此浮世を棄てるが我身の爲めと米子は茲に愈〻決心し、樓主とも談じ合せて、情夫某家をも訪ふて決心のほどを明かしたすると妻女は涙を流し、女盛りの世をすてゝ、尼僧となり、若い身空を寂しい境涯に沈むといふのも、元はといへば我夫から起つた事と、思へば一方では嬉しくも一方では氣の毒でたまらず、思ひ止つて下さるやうに、と泣いて云ふたが米子の決心は牢として拔くべくもあらず。斯かる身のはめとなりては、男もほと〳〵恥ち入り、八年間の夢も一時に覺め、きつぱり是で思ひ切るといふ事になり、斯くて米子も安心して今は前記の尼庵に名も妙響といふ尼になつて居る。一人の發心が遂に一家夫婦否其子孫までも救ふことになつた。何だか小說のやうな話ではあるが、眞實の話である。藝妓だとて、皆悉く惡びれたあばずれ者ばかりではない、救の船を漕ぎ寄せてやりさへすれば强ち乘るを拒むものゝみではないのである。嗚呼信仰ある姉妹等よ、漕げよ救の船を、而して罪に沈みつゝある同胞を助けよ。

（球川）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

THE NANKOIN HOSPITAL

CHIGASAKI, SAGAMI, (Near Ōiso)

Under the Management of

Dr. K. TAKATA

Within a few minutes from the Chigasaki R. W. Station.

HEALTHIEST SITUATION FACING THE
SAGAMI BAY FINE SCENERY

Telep one : CHIGASAKI No. 2.

▲入院は診斷後隨時需に應ず

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤

電本 八八八番(病院用)
八九八番(自宅用)

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町柏海濱、停車場より半里

電 チガサキ 二番

南湖院

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

▲院長渡歐中の處今般歸朝す

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

東京基督教青年會
出張講演部趣意

今や我社會は何れの階級に於ても精神的修養を必要とする時期とはなれり而も一面には事務多端にして容易に其機會を得がたく其必要を感しながらも空しく歳月を消費するは皆人の遺憾とする所なり爰に於てか我青年會は社會人心の要求に鑑み出張講演部を設け廣く一般公衆の需めに應して精神修養の機會を便ならしめんとす仍て其方法を定むること次の如し

一教會、家庭、會社、商店、學校、青年團乃至個人ニ於テ便宜ノ時ヲ擇ビ出張講演ヲ依頼セラルヽ時ハ講師ノ都合出來得ル限リ之レガ需メニ應ズル事

一出張講演ノ種類ハ講師ノ專門トスル所ニ從ヒ依頼者ノ希望ニ應ジ適當ナル問題ニ付講演ヲナス事

一出張講演實費ハ依頼者ニ於テ支辨スル事

右出張講演部講師トシテ左ノ諸氏ヲ特別ニ依頼ス

(教育問題)……江原素六氏
(兒童教育)……巖谷季雄氏
(論語、聖書)……安部清藏氏
(醫學、衛生)……川上昌保氏
(修養)……山本邦之助氏
(獨唱)……青木兒氏
(教育、宗教)……鵜崎庚午郎氏
(靈性問題)……長谷川哲治氏
(兩性問題)……千葉昌雄氏
(道德)……小松武治氏
(体育問題)……大森兵藏氏
(家庭及兒童)……久留島武彦氏
(禁酒)……安藤太郎氏
(聖書)……柏井園氏
(聖書、傳道)……高橋卯三郎氏
(合唱)……青年會コワイヤー

尚此外の諸名士に對しても便宜紹介の勞を取るべし

東京神田區美土代町三丁目三番地
東京基督教青年會
(電話本局百五十六番)

◉鐵道界最大多數の讀者を有する本誌を見よ

益富政助主幹

鐵道青年

毎月一回一日發行
四六二倍版六四頁
定價僅かに五錢
郵稅金壹錢

◉大隈伯爵は鐵道青年會を以て日本に於ける**理想的青年會**なりと稱讃せられたり之豈局外者の批評のみならんや。前鐵道院總裁後藤男爵は去年の大會に於、祝辭を寄せて左の如く曰へり。曰く『抑も鐵道青年會に對しては余は設立の當初より大に此擧を賛し親しく之が發會式に臨みたる事もありて、本會の進歩發達は余の欣喜に堪へざる所なり。聞く所に依れば今や會員は全國に普く。無慮**一萬三千餘**を數へ、其多きこと優に**日本第一の青年會**なりと稱せらる。而かも單に其會員の數に於て著しきもののみならず其成績に於ても頗る見るべきものあるに至つては、是實に我鐵道界の爲、將來國家社會のために大に祝せざるを得ず云々』

◉今や本會創立第四年目に入るに及び新たに**五千**の讀者を加ふるに至れり。本會たるもの豈に奮闘努力せざるを得んや**基督教信徒**たる鐵道員鐵道傳道に志ある基督教牧師宣教師、並に苟しくも社會政策社會事業に注目するものは必ずや本誌を一讀せざるべからず。

東京市神田區美土代町三の三青年會館内
鐵道青年會本部 振替貯金口座東京一九五三三番

會員諸君の投書報告を望む

本會は各地の男女貞潔問題に關する、模範となるべき善風良俗、若くは惡俗陋習、各地遊廓の狀態、並に風紀との關係、藝妓酌婦等の盛衰と、各地産業の消長、徴兵檢査に於ける花柳病の多寡等を調査したいのであるが、各地の局部に渉る細密な調査は中々手が屆かないから、之を會員各位の報告に俟ち、本會の資料とする事は、各地廓淸運動上切要なる事である。或は又廢娼若くば貞潔問題に就き、これ迄盡瘁せられたる人々の傳記、運動の顚末等の世に隱れたるものを紹介するのも、强ち無用の業ではない。本會はこれ等に就て特に會員各位の投書報告を望むものであつて、出來得る限り、「廓淸」誌上に紹介し、運動の資料にしたいと思ふ。

東京市神田區美土代三丁目三番地

廓淸會本部

廓淸會綱要

(一)本會の目的 は男女間に貞潔の德操を進め、社會の風紀を廓淸し、家庭の和樂人生の幸福を増進するにあり。而して公娼制度は此目的に反する惡制度なるが故に之が全廢を期す。

(二)入會の心得 右の趣意を贊成するものは男女を問はず何人も入會することを得。入會希望者は住所、氏名職業、年齡を記して本部又は支部に申込むべし。(贊助會員は口數を明記す)

(三)會員の特權 會員には本會機關雜誌「廓淸」を毎號寄贈す。

(四)會員の種類 會員に二種あり。

一、**贊助會員** 本會の維持費として毎月一口(二十五錢)以上を出資する者。

二、**正會員** 毎月金五錢を納むる者。

(五)會費の納入 會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。

(注意) 前項振替口座一九五三三番は益富政助氏名義にして廓淸會所有にあらず、依て御送金の節は、必ず益富政助宛に御拂込相成たし。但し裏面に「廓淸會費」と明記ありたし。

廓淸會本部役員

顧問 伯爵 大隈重信
會長 島田三郎
副會長 矢島楫子
同 安部磯雄
會計 山本邦之助
常務理事 益富政助
理事 內ヶ崎作三郎
同 鵜崎庚午郎
同 矢吹幸太郎
同 山田彌十郎
同 小松武治
同 小崎千代子
同 島貫兵太夫

大正元年九月十五日納本 一部定價金六錢
大正元年九月十五日發行 (毎月一回十五日發行)
東京府下大久保百人町百卅八番地
編輯兼發行人 益富政助
東京市小石川區久堅町一〇八
印刷人 水谷景長
東京市小石川區久堅町一〇八
印刷所 博文館印刷所
神奈川縣川崎町砂子百三番地
發行所 廓淸發行所

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

常に神の教を守り給ふ

信仰深き嬢よ

容儀の修整も忽せにし給ふこと勿れ

常に**クラブ洗粉**を用ひて氣高き素顔の美を發揮せられよ

朝夕**クラブ白粉**を用ひて高尚なる薄化粧を調へ給へ

少くとも日に一度は必ず**クラブ齒磨**を用ひて歯牙の健康を保護し

給ふべし

斯くして信仰深き御身の健康と品位を保ち給へ

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）（大正元年九月十五日納本）（毎月一回十五日發行）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY